

伝習館



東京同窓會會報

第15号 2015.1.1



題字は母校伝習館に掲出してある創立者立花鑑賢公の書の扁額の文字を会長の江崎正直氏（高2回）が臨書したもの

特集「安東省菴と朱舜水」
修学旅行生との交流会
立花家の「歴史をつなぐ3つの物語」
青春のパイプライン



表紙写真「舞い降りるメジロ」

咲き始めた梅をバックにエサ台のミカンを食べに来たメジロ

表紙ウラ「ぎんやんま」

昭和30年代には柳川にもたくさんいました。

表紙ウラ「ダイヤモンド富士」

東京を始め関東に御住いの同窓生諸氏のほとんどが「ダイヤモンド富士」と云う言葉を聞いたり、または写真をご覧になったりしたことが一度くらいはあると思いますがいかがでしょうか？ 富士山頂と夕陽が重なる自然現象で、太陽がダイヤモンドのように美しく輝いて見えるためにこう呼ばれているようです。と、言ったものの自宅と職場の往復に明け暮れていたサラリーマン現役時代の小生も耳にするだけで実物は見たことがありませんでした。サラリーマンを卒業してデジカメをぶら提げて散歩するようになり、調べてみると君津（千葉県君津市）地方では春と秋にそれぞれ一日ずつその機会があることがわかりました。春は3月28日頃、秋は9月23日頃です。当然ですが写真に収めるには晴天が絶対条件ですがこの頃は冬のように乾燥した良い天気が続くことが稀で、前日はバッチリだったのに当日に限り晴れていかなかったり、最悪の場合は自宅を出るまでは晴れていて富士山もバッチリ見えていたのに撮影ポイントに着くまでの10分弱の間のみみる雲が出て来てダメだったということもありました。ところが投稿写真を撮った時はその逆で、自宅を出る時は曇っていたので今回もダメか？ と百パーセント諦めていたのですがそれでもデジカメだけは持っていたのが幸いしてふと何気なく富士山の方に目をやると少しずつ雲が取れていき念願のダイヤモンド富士が拝めそうな状況になっているではありませんか！慌てて三脚を立てて興奮しながらシャッターを押しした何枚かの中の一枚です。絶好の撮影ポイントではなく行き当たりバッタリで、且つ素人カメラマンがゲットしたものなので写真にうるさい人にとっては「なんだっ、これはっ！」と馬鹿にされそうですが、8年近くも待ち望んでいただけに小生にとっては掛け替えのない一枚であり瞬間（平成26年3月28日17時43分）でもありました。

第15号 2015.1.1

東京同窓会本部より

平成 27 年年頭のあいさつ	会長 江崎 正直	2
平成 26 年度伝習館東京同窓会総会報告	高 21 白谷 政則	3
総会の収支報告		4
特別講演 安東省菴と朱舜水	高 10 内山 秀生	5
平成 26 年度修学旅行生交流会報告	高 18 福山 博彰	8
賛助金ご協力状況報告		11
賛助金通信欄コメント		12
東京同窓会決算収支報告書		13

母校だより

伝習館高等学校館長着任挨拶		14
平成 26 年度進路状況		14

先輩・後輩より

燦然なり!! 美熟女の集い	中 48 宮本 弘道	15
いま、白井朗さんに、哀悼の辞を	高 4 渡邊 喜亮	15
立花家の「歴史をつなぐ3つの物語」	高 5 下河 秀行	16
墨象 <small>ぼくしょう</small> について	高 6 木村 峯子(松峯)	17
復活されたドンキャンキャン (風流)	高 10 内山 秀生	18
趣味を持ちましょう	高 12 馬場 康子	19
中年おじさん5人組のシンガポール紀行	高 18 古賀 行夫	19
青春のパイプライン (映画篇 II 前篇)	高 18 福山 博彰	21
江戸ー東京 立花家ゆかりの地めぐり	高 21 北島 正常	23
高校生との交流会に参加して	高 51 大曲 由起子	25
交流会には、また参加したい	高 59 川口 惇	26

学年だより

高四 (1953) 卒の東京同窓会	高 4 渡邊 喜亮	26
第 34 回「ふくの会」	高 5 阿津坂 林太郎	27
高 6 回 (昭和 30 年卒) だより	高 6 石橋 修	28
くっぞこ会	高 12 小野 アケミ	28
高 14 回 同期会開催	高 14 高木 節子	29

ふるさと瓦版

「立花家文書」		30
第 48 回うなぎ供養祭		30
市内各地で夏祭り		31
ふるさと納税全国ランキング 1 位		31
水上の大運動会「掘んぴっく」開催		32

書籍紹介

森里海連環による有明海再生への道		32
編集委員退任に当って	高 2 小野 善睦	33
編集後記		35
同窓会会則		36

傳習館



東京同窓会 会報

東京同窓会本部より

平成 27 年 年頭挨拶

伝習館東京同窓会 会長 江崎正直

明けましておめでとうございます。

昨年、東京同窓会では二つのイベントがありました。

一つは2年毎の東京同窓会総会で、去る7月6日、ホテルグランドパレスで、約300名の会員が出席して開催されました。総会に先立って、柳川古文書館・田渕義樹副館長から「安東省菴と朱舜水」の講演がありました。安東省菴（1622～1701）は立花藩の儒学者で、伝習館の祖先に当たります。朱舜水（1600～1682）は明末の大儒学者で、1659年日本へ亡命して来ました。裸一貫で長崎へ来日した舜水に、省菴は自分の俸禄の半分を与えて舜水の生活を助けました。舜水は1665年、徳川光圀に招かれて江戸へ上がるに当たり、明から持参した孔子像三体を省菴に贈って、6年間お世話になった好意に報いました。伝習館の孔子像はその中の一体であります。省菴は日本の大儒学者の一人で、門弟がその意志を受け継いで立花藩校を創立し、今日の伝習館に至っています。

もう一つは去る9月16日、早稲田のリーガロイヤルホテルで開催された修学旅行生交流会です。これはこの10年来、毎年行われています。今回は現役大学生並びに社会人若手の参加が増えて、生徒たちが親密感を抱き、充実した交流会が持てました。その後送られてきた生徒たちの感想文により、彼らの満足感を如実に知ることが出来ました。

10月11日には故郷・柳川で伝習館同窓会があり、全国から約700名の会員が出席して開催されました。例年御花だけでしたが、今年は新装成った伝習館の体育館で総会がありました。講演ではNHKの元アナウンサー草野仁さんが「いつもチャレンジ精神で」の演題で、16世紀以降に来日した外国人は、例外なく日本人の教養の高さを褒めた、NHKに入社した自分史、黒柳徹子の処世術など、極めて感銘深い講演でした。次いで会場を御花の庭園へ移して、盛大な懇親会がありました。

少子化の影響で伝習館はこの新春から、全日制では従来の6学級から1学級減らして5学級となり、加えて定員割れが続いた定時制は募集停止になるのは寂しいことです。福岡県下高等学校の学科試験で、伝習館生が優秀な成績を取めたと、堀館長先生からお聞きしたのが、せめてもの慰めでした。伝習館の校舎は全面改築中で、完成は3年後の平成29年の予定です。学校正門だけは、昨年既に改造されて立派になっていました。

会報が年1回継続して発行されるように、会員の皆さん方には賛助金納入をお願いします。

今年もお元気でお過ごし下さい。

平成26年度伝習館東京同窓会総会報告

高21 白谷政則

二年に一度の東京同窓会は多くの方が楽しみにしていられると思います、どうすれば喜んでいただけるか少し趣向を変えながら準備しました。今までに料理が少ない、酒が足りなかった等の反省をふまえ『郷土の料理・酒・肴』をメインに、ホテルにはガメ煮（筑前煮もどき）と高菜チャーハンの調理をお願いし、地元の日野酒蔵・菊美人酒造・志岐蒲鉾・関屋蒲鉾店さんから日本酒・てんぷら・竹輪を取り寄せました。ミニ柳川の雰囲気は少しは味わえましたでしょうか？夏の食べ物といえばガネ（蟹）やシヤツパ（しゃこ）だろうと言われそうですが、手が汚れせつかくのよそ行きが台無しになってしまうです。又、二五〇名分用意するのも大変ですので今回は見送りました。……ともっともらしく言い訳をしました

が、この料理を頼むと予算オーバーになってしまうのが本場の理由です。やはり有明海の美味しい幸は地元で味わってこそおいしく有難く感じるものと思っております。

講演会（詳細は別稿）を聴いていて疑問？がわきました。伝習館は安東省菴の私塾をルーツに一八二四年柳河立花藩の藩校として創立と言われていますが、柳河地方で学問所（私塾寺子屋など）はいったいいつ頃から始まったのでしょうか？

か？【安東省菴（一六二二～一七〇一）は武家の次男であったが聡明で向学心が強く、度量もあるので一六三四年藩主立花宗茂公より分家独立を許される。一六三七年島原の乱の鎮圧に従軍負傷。朱舜水とは一六六〇年長崎で会談】から察するに一六四〇～一六五〇年頃には私塾を開いていたのではないのでしょうか？そうすると伝習館の歴史は二〇〇年どころか三五〇年以上四〇〇年に近いと考えられます。又、俸禄二〇〇〇石の内半分を朱舜水に送り援助したそうですが現在の貨幣価値ではいくら位なのかも考えてしまいます。どなたか教えてください。疑問に思いながらも自分で調べようとしない、そのまま放っておく私の悪い癖です。ちなみに安東家本家は俸禄五〇〇石だそうです。（これは自分で調べました）

総会の議事は柗島正司副会長の就任と常任幹事選任（四名）の承認を得てスムーズに進みましたが、館長の挨拶の中で来年の新入生から一クラス減り三年後には全校で六〇〇人になるとのことでした。また、少子化の波は生徒数の減だけでなく近隣校との統廃合も有り得るとの話は、我々の時代、団塊の世代からしばらくは一学年五〇〇人もいたのにとショックを受け、東京同窓会もいまの内から若手対策を急がねばならないと考えさせ

られました。

懇親会はお楽しみいただけましたか？今回は高6古賀譲次様のピアノ演奏と同じく高6木村峯子様の墨象紹介から始めました。乾杯の前ですので皆さん静かに聴き入っていらしたようで大きな拍手が起きました。乾杯のご発声は中学48回卒の宮本弘道様にお願いましたが、九十歳になられる宮本様の明瞭な挨拶やお姿に感嘆の声があちこちから聞こえていました。その後の数時間はいつもの様に柳川一色に染まったグラウンドパレスですが、中学伝習館の卒業生が少なくなり柳河高等女学校卒の方は一人もいらつしやらないので寂しくなりました。しかし、高1～高3の方々は中学伝習館・柳河高女入学、伝習館高校卒業ですので今後も校歌は唄い続けていきたいと思っております。

今回の総会は実行委員がなかなか決まらず以前に委員の経験がある方や初めての方等、幅広い年代にお願いしました。経験者は受付と物産品の担当、慣れてない方は土産の袋詰めと物産品のお手伝いをお願いしました。今まで手持ち無沙汰で退屈そうだった若い人や大学生もきびきび動き、当日は一時間もかからず受付の時間十時前には全て準備が整いました。

九月の学年幹事会で総会の感想を聞いたところ◎若い人の力が目立った◎すばらしい、いい総会だったので懇親会だけでも毎年開催したらどうか◎同窓会の役目がありましたので、今後に期待したいと思えます。

◎古賀譲次様 プロフィール

昭和30年（高6）伝習館卒業後、国立音楽大学作曲科で学ばれました。小学生の頃音楽の道に進むにはどうしたらいいか悩まれた時、叔父様の古賀政男先生（昭和の大作曲家 国民栄誉賞）に相談したところ『高校までは普通の学校に進み人間形成に努め、大学から音楽専門の勉強をしたほうがいい』とのことで伝習館に入学されました。高校時代は内山田洋とクールファイブのリーダー内山田洋（本名 道生）様と同期で、音楽部では一緒に活動されました。東麻布にありますミュージックレストラン『フロイデ』の元オーナーで今でも週一回演奏されております。

◎木村峯子（号 松峯）様 プロフィール

昭和30年（高6）伝習館卒業。当時の皇太子妃美智子妃殿下（現皇后陛下）の師である熊谷恒子先生に師事。その後女性書道家の第一人者として活躍され、特に墨象の作品は世界中で大きな評価をうけております。ル・サロン（世界最古・最大フランス芸術家協会）永久会員、スペイン国立プラド美術館芸術家功労証会員、国際美術評論家選考委員会（AMSC）永久無鑑査公式認定作家・会員、中国福州書院認定作家、日本文化遺産認定作家、その他にもチェコ・オーストリア・モナコ・アメリカ・オランダなどで受賞され、世界中の美術館や博物館に展示されております。昨年はフランスルーブル美術館に作品の一つが収蔵され、スペインの世界的芸術家の認定も受けられております。

皆様ありがとうございました。

平成26年度
伝習館東京同窓会出席者

出身中学校別 (柳城のみ小学校別)	(学年 (年代) 別)		高	中	低
	高	中			
柳城77	21	16	1	48	56
柳河	25	20	5	5	9
城内	32	43	22	45	9
東宮永	6	11	6	10	10
その他	32	28	22	22	45
柳南 (矢留、両開)	6	9	30	32	32
昭代	6	11	14	14	14
蒲池	6	11	14	14	14
三橋	6	11	14	14	14
大和	6	11	14	14	14
大川	6	11	14	14	14
大川南	6	11	14	14	14
大川東	6	11	14	14	14
城島	6	11	14	14	14
大木 (花宗、大江)	6	11	14	14	14
合計	247	247	247	247	247

合計 247名+館長、講師。
出席のはがきより集計しました。
会計報告との誤差は当日のドタキャン等により
差が生じています。

抽選会景品ご提供者

・「御花」一泊二食付ペア宿泊券	3
立花寛茂同窓会会長 (高10)	
・ホテルグランドパレスペアお食事券	2
ホテルグランドパレス様	
・ギリシャ・クレタ島産オリブオイル	20
ギリシヤワイン	
岡田哲也様 (高6)	
・みかん絞りジュース	12
(株)御花様	
・写真集「柳川と檀一雄」	10
立花民雄様 (高17)	
・画面上村淳 サイン入り画集	3
・写真集「四季の彩り」	5
高木節子様 (高14)	
・ハーゲンダッツ・アイスクリーム	10
西原正道様 (高21)	
・チョコレートランチ・フィルデン	6
千鳥屋総本家様	
合計	83点

千鳥屋総本家様からは毎回出席者全員に伝習館 (三稜) マーク入り饅頭
もいただいております。いつもあり
がとございます。

平成26年度伝習館東京同窓会総会決算報告書

平成26年7月6日 (日曜日) 於：ホテルグランドパレス 単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
会費		宴会費 (ホテルグランドパレス)	1,876,057
男性 159名 @10,000	1,590,000	講演謝礼 (田淵柳川古文書館副館長)	100,000
女性 65名 @9,000	585,000	宴会用飲物、地元食材等	125,754
大学生 16名 無料	0	参加者土産、来賓土産、売店用商品等	198,343
ご来賓 6名 ご祝儀	60,000	印刷物その他雑費	38,990
小計 246名	2,235,000	振込手数料	2,160
売店売上	126,400	小計	2,341,304
		賛助金に入金	20,096
収入合計	2,361,400	支出合計	2,361,400

総会日当日に、32名もの方から賛助金、191,000円をご協力頂きました。有難うございました。

学年幹事会について

高21 白谷政則

東京同窓会の主な行事は二年に一度の総会開催、および毎年の会報発行と修学旅行生との交流会です。この三つに合わせ学年幹事会を年三〜四回開き、担当委員の選出や準備の進捗状況を報告し会（行事）の方向づけ等について話し合っています。学年幹事会という硬い感じがしますので、今回はどのような雰囲気なのか皆様にやわらかくお知らせいたします。

十年以上ものあいだ千鳥屋さんの会議室を使用させてもらっていましたが学年幹事会も30名の参加となると手狭になり昨年からは近くの駒込文化創造館の会議室を利用しています。会議はだいたい二つか三つのテーマについて話し合いますが、まず直近の行事について感想や反省点を出席者全員に述べてもらい、次回の改善策につながるように一つひとつじっくりと時間かけて話し合います。江崎会長は強いリーダーシップで皆を引っ張るようなイメージを持たれているかもしれませんが、会議の席では年配の方から若い人まで幅広い意見に耳を傾け結論を急がず出席者全員の賛同を得て決め、決めた事は出来るだけ全員で参加しようと学年幹事の積極性を引き出すという姿勢を取られています。進行役の原田副会長は総会でもおなじみの話術で、女性や若い

方からの発言も必ず求められ意見が偏らないように気配りされる名司会です。

会議はだいたい土曜日の午後、会費は五百円（お茶お菓子代）、たまには脱線しながらも和気あいあいの雰囲気のおかげで二時間で会議は終了します。その後有志は居酒屋でまた二時間ほど楽しい時間を過ごします。いつも40才代から80才代まで（たまには30才代も）老若男女十五人ほど参加しますが、もし学年幹事会が堅苦しいものだったらこんな事はあり得ません、学年幹事会の夜の部もまた楽しいものです。毎年数回十年も続いていると、先輩後輩の垣根は随分低くなり、親しく接し同窓生は有り難いと思っております。

幹事が決まっていない学年がまだ20位ありますがもったいないですよ。学年幹事会は歳の離れた先輩・後輩と親しくなれます。縦のつながりを横（同学年）に広げると楽しさは何倍にもなります。学年幹事会は気楽に参加できる会ですので、ぜひ事務局へご連絡ください。

事務局の連絡先
電話 03-3915-0865
FAX 03-3915-0220

平成26年伝習館東京同窓会総会 特別講演

当日総会にご出席されなかった方もおられますので、当日配布されたレジュメを転載します。

転載責 内山秀生

「安東省菴と朱舜水」

柳川古文書館
副館長 田淵義樹

はじめに

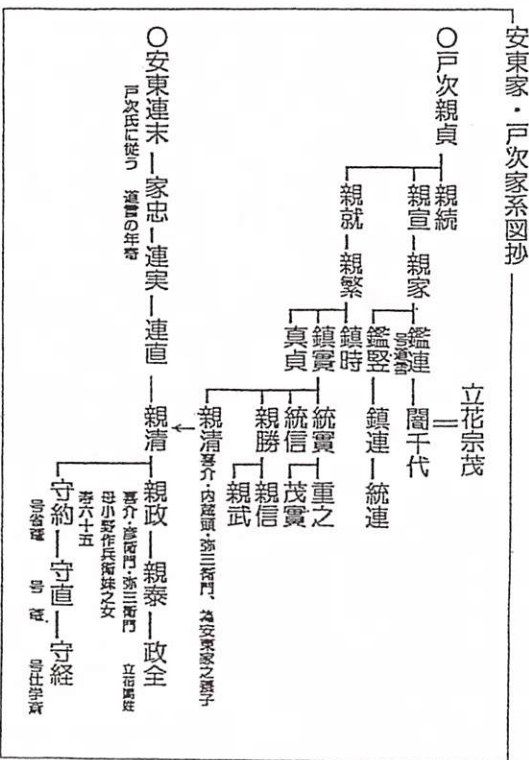
●昭和50年に柳川市に寄贈された安東家史料は、柳川藩儒であった安東省菴をはじめとする安東家歴代に関わる貴重な史料群である。

安東省菴は、江戸時代、貝原益軒とともに「海西の巨儒」と称される優れた儒学者であるが、明末に長崎に来た朱舜水の日本留住に奔走し、長崎での生活を助けたことでも知られている。朱舜水は後に徳川光圀の師となり江戸へ向かい、二人は離ればなれになるが、

その生涯を通じて交流を続けた。

●安東省菴（1622—1701）とは柳川藩の儒学者。安東親清の次男。幼名は四郎、のち助四郎。名は守正後に守約と改めた。字魯黙、号は省菴、また恥齋と称す。幼少より二代藩主立花忠茂の側に仕え、島原の乱に参加。28才の時京都に出て松永尺五に師事し、後年会津藩主保科正之から召されたが辞退したとも言う。

武士の家としての安東家は兄親政が継ぐが、省菴は儒者として別に一家を立てることが許された。延宝9年知行取無足扶持方共（隈部家文書2）によると、兄の安東彦（右）衛門は500石、省菴は200石で、ともに立花九郎兵衛組に所属した。



●朱舜水（1660—182）とは

中国浙江省余姚（現余姚市）の人。

名を之瑜、字は魯璵。舜水の号は余姚を流れる川の名前からとる。父を早く亡くしたが、

南京松江府（現上海市松江區）の儒

生となり、早くから親族らに期待されて

いた。しかし、当時の明朝の退廃ぶりが舜水の理想

とあまりにも違うため士官の道を選ばな

かったという。当時の中国では、ヌルハチ（清の太祖）が後金国（後の清）をた

て、明軍を各地で打ち破って次第に南下し明は存亡、南明政権があるのみであった。

舜水は39才の時、恩貢生として礼部に推薦され「文武全才第一」と称された。

しかし数々の徴（天子からの召・辟（州府からの招）も辞退して、ようやく13回

目の監国魯王朱以海による徴辟に応じた。舜水58才の時である。

もつとも舜水も明朝の危機にあたり何もしなかった訳ではない。舜水は中国舟

山を拠点とし、日本や安南（ベトナム）で「海外経営」につとめるなど長く船上

にあった。舜水は、1645（正保2）年以降、留

住までの15年間のうち7回も来日し、中国への派兵を要請したのである（日本乞師）。



朱舜水画像（模本）
明治5年 草川重遠
日本肖像画図録（京都大学文学部博物館図録）・思文閣出版・1991年

一、朱舜水との出会い

●省菴（28才）は京都の松永尺五の門に入る。儒学のなかでも朱子学の立場をとる。省菴は寝食を忘れ学問に打ち込み、病氣となり長崎で治療を受けた。

●穎川入徳（陳明徳）と独立

長崎で省菴の治療をしたのは穎川入徳（浙江省出身）。のちに黄檗僧となる独立や朱舜水も入徳の家に同宿。独立は医者、書家。↓岩国の吉川家・錦帯橋。

●万治2（1659）年に省菴は京都から柳川に帰る。その時穎川入徳が、中国にいる朱舜水が省菴のために書いた「鴻文二篇」を持ってきた。（実はこの時には二人はまだ会っていない）↓「安東省菴、誠真豪傑之士哉」と書いてある。入徳は舜水がいかにすばらしい人物かを説

明。

●感激した省菴は、すぐに返事と自分が書いた原稿を送る。その際、舜水の呼び名が失礼になるのを恐れて弟子が先生に對して使う書札で書いた。

二、長崎での省菴と舜水

●長崎での省菴と舜水

万治3（1660）年、舜水は長崎へやってきた。1659（万治2年）7月の鄭成功（国姓爺）の南京攻略（舜水も從軍）が惨敗し、明朝再興の夢が断れたため。舜水61才。舜水は省菴を長崎に招く手紙を出したが、この時柳川藩主が江戸にいたため、藩外へ出る許可を得られず、会うことができなかつた。そのため手紙でやりとりをした。

●長崎留住の決定

万治3（1660）年、省菴は仲間と一緒に舜水の日本留住に奔走した。そして舜水は「不佞留住 日本事已定」（不佞の日本に留住する事已に定まる）と手紙で知らせ、そうになったのは、省菴の日頃の行いが人を心服させたからであると言っている。

●「知己」省菴

舜水が省菴にあてた手紙には、省菴の名前の下（いわゆる「脇付」）に「知己」の文字が書かれている。↓「日本留住」の手紙参照。
この「知己」の二文字は、「至於知己

両字、他人以為尋常贈遺語、不佞絶不肯許人」（知己の両字に至りては、他人以て尋常贈遺の語と為すも、不佞絶て人に許すを肯んぜず）と記すように、舜水にとつて軽々しく簡単に書く言葉ではなく、舜水と同郷の完熟にしか使わないものであった。その「知己」という脇付を省菴に對してだけは手紙に使っている。

●舜水の生活を支えた省菴

省菴と舜水との交流は、省菴が俸禄の半分を送り舜水の生活を支えたり、長崎大火の際妹が危篤だったにも拘わらず長崎へ駆けつけた、等の逸話が知られている。

このことは当時江戸まで伝わり、大変な評判となっていた。

●省菴の学問と出版

もともと朱子学を学んでいた省菴は明の陳建の著「学蔀通弁（かくほうつうべん）」の内容（朱子学を正しいとし、仏教や陸象山の学問を批判する）に共鳴し、調点を施し出版した。

学蔀通弁の省菴跋文には「己亥冬入洛、劄ケツ氏就求国字旁訓、守正欲廣諸同志、於是僭為詮次、且以就正於博雅君子也」とあり己亥（万治2年）の冬、京都で書肆から国字の旁訓（送りがな・返り点）をつけて出版することを依頼されたことがわかる。また寛文3（1663）

年の刊記をもっている。この「学蔀通弁」は舜水と出会う前の省菴の学問の到達点とされていた。

ところが、この本の出版の過程で舜水

に原稿を見せて添削をうけたことが判ってきた。またこのほかにも省菴は原稿を舜水に見せ、意見を聞いていた。

●朱子学と陽明学

舜水と省菴の關係は「年俸半分」の話などが喧伝されるが、それだけでは無い。遺された筆語や書簡からは、学問や生活に対する二人の真摯な姿が浮かんでくる。舜水と出会う前の省菴は、朱子学を学び、陽明学を排斥する立場だったが、舜水は省菴への手紙のなかで、長崎から京にいくのに、陸路でいくのと水路でいくのに違いはない、京へ着くのが問題であって、行き方が問題なのではない、と論じている。

寺請之儀二付而申上事（安東家史料44）によると学部通弁・訓蒙集の出版の可否を自身の所属していた組の家老立花九郎兵衛に問い合わせている。
訓蒙集（伝習館文庫・安東3）についても「訓蒙集跋小為改定、即時寄去」（安東家史料1246）と舜水は跋文の改定のためすぐに送るように指示している。また出版をためらう省菴に対して「近著訓蒙集、誠有益於学者、何謂無益之事、當留意速成之」（舜水先生文集第6巻・安東家史料1202）と「誠に有益な書物でなぜ無益なものというのか、はやく出版しなさい」と激励している。

●三忠伝と楠公碑

長崎の人が楠正成・正行父子の画像の贊を舜水に求めた際、中国人である舜水

は当然二人を知らなかったため、省菴がその伝記を作って舜水に献呈したという。

この伝記は、のちに平重盛・藤原藤房と合わせて『三忠伝』として、省菴が版行することとなる。

また、舜水が徳川光圀に招かれて江戸へ上った後、金沢藩五代の前田綱紀の依頼で、狩野探幽の描く「楠公夫子訣別之図」の贊も求められたという。

そして元禄5年には、徳川光圀が湊川にある楠正成の墓を修理し碑を建てた際、表には、光圀自筆の「嗚呼忠臣楠氏之墓」、裏には舜水が前田綱紀の依頼で書いた贊文が彫られている。

三、舜水東上

●徳川光圀の招聘と舜水の態度

徳川光圀は家臣小宅生順を長崎に派遣して、舜水の学問と人となりを見定めたい。その時舜水は「若至招我不論禄而論礼」（若し我を招くに至らば、禄を論ぜずして礼を論ぜよ）と述べている。結局、舜水は省菴などの勧めもあり、寛文5（1665）年、舜水は江戸へ上った。光圀は自らその門人となった。

●孔子像三体

なお舜水が東上途中柳川に立ち寄った際、渡したのが伝習館高校などに遺る孔子像三体と言われている。

これらの像は伝習館、安東家、湯島聖堂にそれぞれ安置されている。

●舜水の号

光圀は舜水を字である魯璵では呼べないので、号で呼びたいと言ったのに対して、故郷の川の名前である「舜水」をその号とした。

●舜水と省菴の交流

舜水が光圀に招かれ離ればなれになる際、省菴は舜水に「弟子之事師、如子事父、未有子事父而望父之報者、今後老師は、子の父に事うるが如し、未だ子の父に事えて父の報いを望む者有らず、今後老師必ず金帛を以て門生に賜うこと勿れ」、つまり弟子が先生に仕えるのは子が父に仕えるのと同じことで、父から報われようとする子供はいません。（江戸にいかれ、お金に困らなくなっても）弟子である私に金や絹などをお送りになりませんかように、と述べたという。省菴にとつて長崎で舜水の生活を援助したことは、見返りを求めることではないという強い思いが語られている。

●しかし実際には、舜水は省菴に報いるため、手紙に黄金などを添えて送っている（安東家史料80—1—1）。

また舜水は70歳の時（寛文9年）、「告老西帰而上公不允」（老（舜水）西に帰るを告ぐれども上公（徳川光圀）允さず）と省菴に告げている。西とはおそらくは長崎、そして省菴の近くということだと思われるが、そこに帰りたいと申し入れたが、光圀の許可を得られなかったのである。結局、その後天和2（1682）

年4月に舜水が没するまで、二人は一度も再会できなかった。

●舜水の死と心喪集語

天和2（1682）年4月に舜水が没するとすぐに省菴は舜水の手紙・筆語などを集めた「心喪集語」の編さんに取りかかり、半年後には初稿を完成させた。このことは「上公様上聞二御達被成候処、早々板行仕候へと被仰出候之由、畏奉存候」（安東家史料185）と、光圀の耳にも届き、早く出版するように促されるが、水戸での「舜水先生文集」編さんを聞き、結局版行することはなかった。

●舜水先生文集の編さん

徳川光圀を中心とした水戸藩関係者の手によつて、正徳5（1715）年に「舜水先生文集」（安東家史料1202）が版行された。省菴は朱舜水とやり取りした手紙・筆語などを、この文集のために提供している。

そのため徳川光圀は舜水先生文集の序文の執筆を省菴に依頼している（安積覚兵衛書状・安東家史料1201）。

おわりに

●江戸時代には、貝原益軒と並び称された安東省菴。

学問的評価も決して同時代の学者に遜色ない人物であった。

↓現代の評価はどうか。

●安東省菴と朱舜水。二十歳も年の違う、外国人との、心のこもった交流。

省菴は父とも慕い、舜水は親友として遇する。

省菴は中国語が話せない、舜水は日本語が話せない。そのなかで「筆談」。

↓三百年前の真の国際交流。

●安東省菴の見返りを求めない献身。

↓日本人の「道徳」の素材。

◎安東省菴は、柳川が、福岡県が、日本が誇るべき人物である。

安東省菴を日本中に発信する、海外にも紹介する。

← 安東省菴を教科書に掲載する運動の必要性

●そのためには、

①安東省菴に関する史料を保管し、把握する。

②省菴の事蹟を正確に記録する。

●柳川市の取り組み。

①柳川文化資料集成「安東省菴集」の刊行。

②明・朱舜水書信展の開催（平成24年3月27日～4月26日、於上海市松江區）

③朱舜水記念堂の展示改修案の提示。

平成26年度 修学旅行生と卒業生との交流会について

高18 福山博彰

恒例の高校2年生の修学旅行生と卒業生OBとの交流会が、今年で第11回を迎え開催されましたので、ご報告します。
日時：9月16日（火）19時～21時
場所：リーガロイヤルホテル東京（宿泊先）

出席者：高校生約230名、先生10名、並びに卒業生33名（内、大学生12名）、6クラスを卒業生4～6名（大学生、若手・中堅社会人、シニア、ベテラン）が各担当、今後の進路、高校時代の勉強・部活、大学・仕事、東京での生活等について和気あいあい且つ真剣な面持ちの懇談でした。

《高校生の感想》（順不動）

▽先輩の話を聴く機会があり良い経験となった。進路について力強いアドバイスもあり頑張ろう、伝習館生であることに自覚と誇りを更に強く感じ、将来を自分の意思で切り開いて行こうと思う。
▽伝習館には荒れてまともに授業ができなかった時代もあると聴き驚いた。
今の進学校と呼ばれる姿にまで変わったのは先生や生徒たちのまぎれもない努力の証であると思った。
▽先輩方は色々なところで活躍されていて、私も社会の役に立つ仕事をしたい、この高校に入って良かったなと思った。
▽夢にどう向き合って行けばよいか、何をすべきかを熟考し努力し行動し続け

ることが大切なことを学んだ。たとえばわなくとも将来の糧となると。
▽最初は堅苦しい会だと思っていたが、大学生や社会人の方の話が面白く、飽きずに集中して過ごせた。先輩方が皆経験豊富で人間的大きさを感じた。私もあの場で後輩に語れる人になりたい。

▽会長「時間は皆平等に与えられている」という言葉が印象に残っている。これから時間をうまく使いたい。
▽東京の大学で学ぶことで視野が広がることを学び、怖がらずにこれも選択肢に入れて進路を見直したい。大学受験は想像以上に辛いと教えられた。

▽男は結果が全て、という言葉が忘れられない。これをモットーに頑張りたい。
▽高校で学ぶことは全て社会に出てから必要となるので、どの授業も頑張らない



といけないと思った。
▽社会人として最低限の礼儀と誠実さは不可欠だと知った。判らないことは判らない、そこから自分がどう努力していくのが大切だと教えられた。
▽一番印象に残ったのは、大学は自分で作るという言葉で、時間割なども自分で設定するなど、時間を有効利用しなくてはならないということ学んだ。

▽一番印象に残ったのは、英語の大切さで、英語ができないと生き残っていけない社会になりつつあるんだなと思った。

▽部活と勉強との両立が難しく、部活を辞めたいと思うことがあったが、先輩方の話から、その厳しさを乗り越えることが自分のためになるのだと伺って、よし、頑張ろうという気持ちになった。

▽人生は逆算して生きろ！ という言葉が印象的だった。今何をしておかなければならないかがおのずから分かります。50才時に私は、誰もが知っている先生になりたい。そのために頑張ります。

▽東京だけでなく、海外へ行ってみることで自分を大きく成長させられると感じた。外国の文化や言語などを留学して学び、視野を広げて行きたい。

▽あまり期待していなかったが、とても充実した素晴らしい時間が過ごせた。大変興味深い話に2時間がすぎ過ぎた。

▽強い意志と判断力、自己管理能力をつけなくてはならないと感じた。

《OBの感想》

▽みんなの初々しさをみて、世の中捨てたもんじゃないと思ったし、自分の成長も実感出来る良い場所でした。今の若者は、意外に意志を持っていて、それに向かって、自分の中で整理のつかない色々な悩みと向きあっているんだなと思いました！ 大人も悩みはあるけど、整理上手になったかな？ 新人指導の参考にさせていただきます。

【51回生 北原美保】

▽高校生とOBが交流できる機会はなかなかないと思うのでぜひ継続してほしい。座談会の際の輪は最大10名位の方がお互いに話しやすい気がします。高校生にとつて目下の関心事は大学受験だと思うので、社会人よりも大学生の話の方

が興味あるのかなと思いました。ただ大学は通過点だと思うので、世間の荒波にもまれている社会人の話を聞くのも少しは勉強にはなっているのでは、と期待しています。(笑)

【51回生 八尋朝子】

▽伝習館の先輩方が、私たち大学生にたくさんお話をさせてもらう機会があり、非常に現役の生徒と距離が近くなり、盛り上がった。また、先輩方が大事などころでお話をまとめて頂き非常に締まる所は締まっており良かったです。

夜の懇親会では、人生の先輩として、たくさんのお話や、困ったら相談にのるよといわれ、非常にありがたい気持ちになりました。このように交流会があると、母校愛がますます深まり、伝習館という学び舎で学べたことを誇りに思います。ぜひ、これからも参加させて頂きたいです。【大学4年 古賀康孝】

▽実は今年の6月に教育実習で受け持った生徒との久々の再会でした。久々といっても僅か3ヶ月ほどしか空いていませんが、生徒の成長ぶりには非常に驚きました。

卒業してもうすぐ4年を迎えようとしています。たった3ヶ月で変化を感じる位ですので、4年前の在学時と今の伝習館が大きく変化していると感じることは当たり前のことかもしれません。

況や、東京同窓会の先輩方と在校生とのギャップは相当あると思います。

しかし、会場に居合わせた皆の「伝習館愛」「三稜魂」が、在校生と東京同窓会を昔からの知り合いのように深く結びつけていることに気づきました。

年に一度ではありませんが、高校生とのふれあいがあるのが、高校生の刺激となっています。来年以降も是非参



交流会OB参加者（敬称略）

中学	55	江崎和夫	3	古賀康孝
高校	2	江崎正直	3	中山皓人
	3	酒井清行	3	松野健一
	12	小野アケミ	1	荒巻陽佑
	12	馬場康子	1	長 健人
	13	原田万紗子	1	浜田直樹
	18	福山博彰	1	東原安由子
	21	白谷政則	1	吉岡和政
	26	藤吉旭水		現役大学生 12名
	32	守谷由佳		
	34	大津志保		合計33名
	36	江口一元		
	51	大曲由起子		
	51	北原美保		
	51	木下浩一		
	51	八尋朝子		
	56	藤木 将		
	59	川口 惇		
	59	古賀康之		
	61	植木 智		
	63	河口拓磨		
社会人OB	21名			
大学4年本園雄也				
4	甲木 滋			
4	亀崎元貴			
4	中村知永			

加させていただきたいと思います。東京同窓会の先輩方、運営ありがとうございます。【大学4年 亀崎元貴】

▽上京してきてから毎年参加させて頂いております。4年目ということもあり、卒業生として参加する交流会の雰囲気にも慣れました。同期はもちろん、偉大な先輩方にもお会い出来るこの機会を毎年楽しみにしております。参加回数が増える度に、大学生になった後輩も増えていきますので、高校時代には交流のなかった後輩とも繋がる事が出来て嬉しく思います。

私自身、高校時代は先生方に迷惑をかけてばかりの生徒でした。あの頃は恐れてばかりだった先生方の深い愛情が分かるようになった今、また先生方にお会いし、成長した姿をみせることが出来る機会に感謝の気持ちでいっぱいです。

大きく年の離れた先輩方も、私たち後輩のことを大変可愛がってください、こうしてお付き合いさせて頂けることを幸せに思っております。

【大学4年 中村知永】

▽今回の交流会では、私の班では学生が司会進行をし、学生主体で喋らせて頂いたので、勉強や学校についての話だけではなく東京での生活全般、本音トークを交えながら楽しく交流することができ、修学旅行生も例年より積極的だったかに思われます。意見と致しましては、昨年男女で分けて本音トークをしたり、一人

の先輩に数人がつき話をするクラスがあったようで大いに盛り上がったそうなので、来年からの司会進行役のために前もって盛り上がったパターンをいくつか紹介してはいかかと思われました。交流会、総会など毎回楽しみにしております。何かこれは学生がやった方がいいだろうという仕事がありましたらご連絡下さい。

【大学3年 中山皓人】

尚、51回生 大曲由起子さん、59回生 川口惇君からの感想文は「先輩・後輩よりに」に掲載しています。

《まとめ役雑感》

☆高校生の感想には、交流会やOBに対する注文や辛口意見等がなかったが、なかなか書きにくいだろうし、スクリーンングもあるから無理もないところか。

☆今回は、個室が4部屋使用できたので、懇談時の親近感が高かった気がします。やはり狭い空間の方が同じ空気を吸い、一体感、親密度がより高まるのかも…。

☆失敗談を、との要請もあるが、これが実は難しい。恥や見栄で話したくないということではなく、理由は二つある。

①実社会の知識や経験もない高校生にある程度理解してもらうには、仕事や組織の基礎的知識や背景・状況の説明が必要だが、その時間がない。と言って、こげな場合にこげんしたら失敗したとよ、と簡単に話しても「それがどげんしたと!？」と頭にも心にも残らず無意味。

②聞く方で期待している「失敗談」とは、

その失敗から得た教訓をその後どう活かしたかの「失敗は成功の素」の話であるので、相当準備してうまく話さないと面白くなって飽きられる。だから話すのが難しい。

過去に、長話で、失敗した。人もいました。

☆この数回、OBの組分け表と高校生からの典型的質問一覧の配布、初参加のOB向け直前レクチャーの実施、懇談時のフォーメーション等、試行錯誤の上、要領が確立し運営はスムーズになった。が、いつも一番心配なのはOBが当日予定通り、時間通りに来てくれるかどうかで、今回もドタキャン6名、ドタカム3名あり、組分け調整等に懇談開始間際まで一苦労。

☆高校生の時に交流会にいた人が、今度は卒業生として本年も多く参加してくれました。このように世代を繋げ、交流会の新しい伝統を引き継いでくれることは、大変素晴らしいことです。

☆交流会後は、参加OB懇親会を開きました。交流会は高校生とだけでなく、OB同士の世代を超えた交流もお互いの世界を広げ、東京同窓会を一段と盛んにするために重要なことと思えます。ご出席頂いたOBの方々に感謝致します。

【賛助金ご協力状況報告】

(平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

卒回	氏名
高2	石橋慶孝
高2	池田国彦
高2	増田勝彦
高2	田中豊子
高2	諸藤繁樹
高2	徳安朔子
高2	増田則久
高2	井坂洋子
高2	北原大薫
高3	田島順次
高3	白井ヒロ工
高3	村井タカ子
高3	加藤和太郎
高4	高須信治
高4	梶島啓之
高5	原タカ子
高5	成田八重子
高5	岸洋子
高5	高橋絹子
高5	野口幹彦
高6	中村充
高6	本間洋子
高6	池田勝詞
高6	石橋修
高6	井手眞
高6	井手由紀子
高6	森清旨
高7	後藤光義
高7	下田敬子
高8	中代桂子
高8	田川辰之助
高8	甲斐田義春
高8	津留京子
高8	中村きよみ
高8	川崎悦子
高8	後藤享
高8	嶋本幸子
高8	市川玲子
高9	木村博子
高9	岩丸純芳
高9	堤泰充
高10	江口武
高10	高島早苗
高10	大村平人
高11	山浦素明子
高11	原尻満子
高11	秋永栄子
高11	城島孝雄
高11	與田広巳
高11	久西朝文
高11	西田孝行
高11	田島龍子
高11	木下淑子
高11	近藤素子
高12	深谷悦子
高12	馬場敦子
高13	池末洋
高13	西雅治
高13	田中利道
高13	甲木久美

卒回	氏名
高31	平田洋
高32	一木亮之介
高35	原ヒサ子
協賛2口	
中51	梶島康任
中55	武藤徳一
高1	高石満之
高2	鬼丸敦美
高7	古賀日出雄
高8	石貫タツ子
高13	坂田幸子
高18	緒方敬四郎
高18	高比良明子
高27	松藤峯成
協賛1.5口	
高2	一力貞子
高3	高木邦介
高3	西山彰
高3	塚田時子
高3	宮崎八代子
高3	酒井清行
高4	藤丸稔子
高5	無記名
高5	家入智恵子
高6	倉田守
高7	古賀国利
高8	池田孝人
高8	大村泰生
高9	福島タカ子
高10	中村紀子
高10	川口圭之
高11	龍勝
高12	横山正和
高12	滝口晴夫
高12	尾田常昭
高12	加藤紘平
高12	古賀アヤ子
高12	江崎照代
高13	進藤達実
高13	原田万紗子
高14	浦家史好
高14	田中静子
高14	鷹尾富士雄
高14	松岡健次郎
高16	多田貞子
高17	山本祥子
高17	北島文之
高17	浦川邦憲
高19	芹川季代子
高21	坂井友実
高23	樋口貴美子
高24	山田直美
高24	石川八重子
協賛1口	
中51	藤吉享
中55	吉弘尚正
女42	山口トヨ
女42	遠藤美代子
併中	石川達弥
高1	熊本亘

卒回	氏名
高32	濱武久司
高34	柳内真理子
匿名	
協賛3口	
中56	鬼丸敏男
高3	井口茂樹
高5	下河秀行
高7	龍弘道
高9	町田和子
高16	松延日出美
協賛2.5口	
中53	深町昌弘
中56	成清良孝
中56	松本学
高女31	跡部愛子
高2	水上富美子
高2	廣松敏克
高2	石崎知見
高2	井上和子
高4	荒井健之輔
高5	緒方豊昌
高5	江口政司
高5	安藤祥介
高5	鈴木妙子
高5	中村義行
高5	古賀弘
高7	野林修
高7	福山さくら
高7	石橋一徳
高7	田中健次
高8	樋口誠佑
高8	豊島黎子
高8	川口融
高8	遠藤武雄
高10	松藤俊正
高10	東辰子
高10	永倉素子
高10	内山秀生
高11	相浦美香
高11	樋口守
高11	岡辰彦
高11	伊藤勝久
高12	小野アケミ
高13	尾田義昭
高14	川原トシ子
高14	石橋俊一
高18	大津博
高18	十時理展
高18	加納和則
高18	松藤由朗
高18	木下栄一郎
高19	田中由紀子
高20	梶島豊子
高20	安永保
高21	中島和彦
高21	西原正道
高22	竜美代子
高24	江崎智恵美
高27	高橋圭介
高28	吉開孝人

卒回	氏名
協賛50口	
女48	堤薫
協賛25口	
高2	江崎正直
協賛15口	
高6	古賀順一郎
高8	益田豊
高26	藤吉旭水
匿名	
協賛10口	
高2	江頭孝夫
高21	甲木清
協賛8口	
高21	石川俊
協賛7口	
高18	川口苦楽
協賛5口	
中46	前原弘
中48	宮本弘道
中56	永井俊一
高1	松藤惟
高2	山田銀一郎
高2	松尾哲夫
高2	小野善睦
高2	山下武
高4	新谷弘実
高4	倉本信夫
高5	岸栄洋
高5	松永悦子
高5	田中礼二
高5	津留清
高5	戸上水治
高6	川口鍵寿郎
高6	白杵律子
高6	木村峯子
高7	中村奨佑
高9	広松洋一
高9	津留昇
高10	板橋加代子
高10	中島哲夫
高10	原田智昭
高14	坂井慶弘
高14	高木節子
高15	大村隆秀
高16	白谷博隆
高16	三小田雅美
高16	梶島正司
高18	福山博彰
高18	満生英二
高18	夏秋洋一
高18	山下京一
高18	平野勇
高18	森田啓悟
高19	野口昇
高19	田中茂利
高20	東寛治
高20	大城美紀緒
高21	白谷政則
高24	上田常子
高24	酒見和

卒回	氏名
高29	古賀宣明
高32	咲村あかね
高33	井上賢二
協賛 0.5口	
中50	三山心栄
高3	高椋重夫
高5	黒田勇
高7	福山さくら
高19	西山悦子
高23	下田真知子

(1口 2,000円)

卒回	氏名
高18	西田美保子
高19	森田達雄
高20	諸藤由美子
高20	近藤敬介
高20	井口ちづ子
高20	田淵正
高21	蓮尾秀子(松川)
高21	千代島道生
高22	田島栄子
高24	田中知子

卒回	氏名
高16	黒田夕工子
高17	藤木清勝
高17	長瀬和子
高17	中島功彦
高17	龍敏彦
高17	宇木博巳
高18	中川紀代子
高18	津留知行
高18	古賀行夫
高18	井口文章

卒回	氏名
高13	尾田義昭
高14	櫻井幸子
高14	宮原修彦
高14	甲斐昌彦
高14	今泉京子
高15	後藤民子
高15	田中チヅ子
高15	岩崎雅和
高15	高加藤美民
高16	高松正

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

敬称略

高9 福島タカ子

会報作りに携わっている方、いつも感謝しながら読ませて頂いております。心ばかりですがお送りします。

高20 近藤敬介

63才。まだまだ現役で頑張ります。

高6 戸上軍治

会報誌有難うございます。江崎会長の松永副会長への弔辞に接し改めて、伝習館東京同窓会での永年の多大な功績への感謝と、ここからご冥福をお祈り申し上げます。松永先輩、本当に有難うございました。安らかに眠りください。

高21 白谷政則

松永様の東京同窓会における功績がいかに大きかったのか、会報を読みかえし、改めて感じます。

中51 椋島康仁

東京伝習館同窓会各位のご健勝をお祈り申し上げます。

高16 白谷博隆

幼馴染の吉田君が居る、沖端「若松屋」のうなぎのせいろ蒸しが食べたいです。皆様のご健勝を祈念いたします。

高20 大城美紀緒

会報有難うございます。時々知った名前に出会うと懐かしくなります。

女48 堤 薫

いつもお世話様です。この度の冊子伝習館の正門なつかしく読ませて頂きました。有難うございました。

高19 野口昇

雪降る季節にはありがたい心のあたたまる冊子です。【旭川近郊在住】

高24 上田常子

会報頂戴いたしました。ありがとうございます。興味深い盛り沢山の内容に楽しませて頂きました。

高21 千代島道生

賛助金今年は早く振込しました。幹事皆様のご苦労お察しいたします。会報は年に一度の楽しみです。妻(熊本第一高校卒)と共に大変楽しく拝見しました。特に仮想の聞き手? 滝川タリステルさんと言うのがスゴイですね。

高5 下河秀行

福岡県人会報「東京と福岡」平成24年5月号のエッセー「お茶にせんね」欄で、柳川の学問の祖、安東省菴について書いたことがありますが、26年度の東京同窓会総会講演会テーマが「安東省菴と朱舜水」となっていましたので、私は我が事のように喜びました。と言いますのは、平成25年11月私が柳川観光大使委嘱式で金子柳川市長への柳川観光のあり方について30項目の提案をした一つに「安東省菴と朱舜水」のドキュメンタリー映画を制作したらどうかと提案しております。ただ日中関係が極端に冷え込んでいます。しかし、このような時こそ安東省菴と朱舜水の人情味溢れるエピソードが重要ではないでしょうか。

高12 尾田常昭

執行部の皆様いつも有難うございます。

高2 松尾哲夫

7月7日は毎年七夕会がありますのでそちらを出席優先しますので、今回の様にズレてもらえると両方出席できて喜ばしいと思います。

高13 西雅治

会報、楽しく懐かしく読んでおります。編集委員の皆様本当にご苦労様です。感謝申し上げます。重ねて東京同窓会、理事・役員の方々へ御礼申し上げます。

高22 田島栄子

スタッフの皆様お世話様です。毎年楽しみにしております。今年は法事で久しぶりの柳川帰省で今からワクワクしています。

高5 鈴木妙子

いつも楽しく読ませていただいています。今回14号に亡くなった兄田中剛(3回卒)の後期の方々の記事とお写真をみて懐かしかったです。一〇〇さんお元気ですね。酒井さんその節は有難うございました。

高24 酒見和平

いつも素晴らしい会報ありがとうございます。

高6 倉田守

岸栄洋さんの追悼文万感の想いで拝読しました。

高7 野林修

毎年伝習館野球部OB会(柳川)へ出席致しております。前回は最年長者となりました。

中55 武藤徳一

毎回の会報楽しく拝読し、賛助金参加率の向上を念願しております。

高5 中村義行

東京同窓会(ふくの会)の益々のご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

高6 森清旨

役員の方々には感謝いたしております。小生も喜寿となり、伝習館時代も少しずつ遠くなってくるような気がします。これからもよろしくご交誼の程お願い申し上げます。

高18 十時理展

「伝習館」と言うだけで親しくなれる同窓会。素晴らしいですね。

高12 古賀アヤ子

石川忠久先生の漢詩、詩吟を習っている私はお会いする機会があり、関心を持ち読ませて頂きました。

高3 西山彰

いつも「東京同窓会会報」を送って頂き有難うございます。

高23 下田真知子

いつも楽しく読ませて頂いております。少しですが。

高7 古賀国利

今年喜寿でも今は全く珍しくありませんね。

高4 倉本信夫

難聴(会話が不自由)でなかなか出席できず失礼してはいますが、体はお陰さまで元気でおります。

高20 安永 保

毎年の会報ありがとうございます。

高14 高木節子

11/16高14回卒の同期会(古希)に参加します。10/11御花での大同窓会。77歳喜寿の時も元気で参加しましょう。

高18 高比良明子

会報誌14号を有難うございました。毎回青春時代とふるさとヤナガワに思いを馳せながら懐かしく楽しく拝読いたしております。

高3 酒井清行

2013年の男性寿命は初めて80歳をこえ、80・21となった。女性は86・61で2年連続の世界一と報じている。男性が70歳代になったのは、1971年で、その後約40年かけて10歳分延びたことになる。不戦、平和万歳!!

高3 宮崎八代子

会報14号有難うございました。故郷のニュース・同窓の皆様情報は大変楽しく懐かしく読ませて頂いています。同期のお友達の元気なお顔! 八十路も頑張ります! 遅くなりました。(倉敷市)

中56 松本学

いろいろお世話いただき感謝しております。これからもよろしく。

伝習館東京同窓会決算報告書

平成25年4月1日～平成25年12月31日

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金(郵便局)	366,000	資料、メール便発送費	1,370
普通賛助金(銀行)	54,000	会議(学年幹事会等)雑費	3,488
普通預金利息	1	資料作成、コピー代	3,820
		松永様供花	15,750
		修学旅行交流会参加大学生交通費	18,000
		修学旅行交流会参加者懇親会補助	53,100
		伝習館総会広告費	40,000
		東京福岡県人会同窓会交流会会費	10,000
		印字サービス手数料	1,100
		郵便振込手数料	8,330
当期収入	420,001	当期支出	154,958
前期繰越金	2,797,182	次期繰越金	3,062,225
計	3,217,183	計	3,217,183

平成26年総会において会計年度の変更が承認された

平成26年1月1日～平成26年12月31日

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金(郵便局)	1,633,000	会報制作費一式(含発送費用)	930,699
普通賛助金(銀行)	22,000	資料、メール便発送費	7,042
東京同窓会総会余剰金	20,096	会議室使用料(駒込地域創造館)5回	10,260
普通預金利息	4	会議(学年幹事会)雑費	28,084
		コピー代	11,896
		総会案内状印刷発送(2000通)	269,923
		返信はがき受付費用(738通)	54,202
		修学旅行交流会参加大学生交通費	13,000
		修学旅行交流会参加者懇親会補助	23,500
		福岡県同窓会交流会会費(2名)	12,000
		伝習館総会広告費	40,000
		ホームページNTTコミュニケーション	32,160
		振込手数料	952
		印字サービス手数料	2,102
		郵便振込手数料	34,050
当期収入	1,675,100	当期支出	1,469,870
前期繰越金	3,062,225	次期繰越金	3,267,455
計	4,737,325	計	4,737,325

定期預金	1,612,548
銀行預金	38,960
預り金	1,615,947
合計	3,267,455

伝習館高等学校館長着任挨拶

館長 堀 秀行



東京同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、平素から母校の教育活動に対し、変わらぬご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、昨年度、定年退職された三宅清二館長の後任として、4月の人事異動で県教育庁理事から伝習館第39代館長として着任いたしました堀秀行と申します。素晴らしい歴史と伝統、さらに良き校風を持った本校に赴任できたことに身の引き締まる思いです。どうか、よろしく願い申し上げます。

さて、2年生が9月16日から19日まで東京への修学旅行を実施いたしました。修学旅行では、東京同窓会の先輩方のお世話で同窓生との交流会を実施し、今後の進路等についての助言や示唆をいただきました。江崎正直会長はじめ多くの先輩方からのお話など伺いながら、母校や後輩に対する熱い思いがひしひしと感じられる一時でした。来年度は、この東京での研修を残しつつ、新たに2日間の東北研修（東日本大震災後の現地研修）を取り入れたいと計画を練っているところです。感性豊かな高校生に、現地を見て、現地の人と会話し触れあうことで、これからの日本を背負って立つ若者に育ってくれることを願うものです。

本校も今年で創立191年目を迎え、200周年に向けて、さらに飛躍すべき時です。本校の校章が象徴する三稜精神、即ち「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成をめざし、文武両道を校是とし、教職員一丸となって教育活動を展開しているところです。

最後に、東京同窓会の益々のご発展と同窓の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げるとともに、職員一同、一人一人の生徒を大切に、生徒の自己実現が達成できるよう努力して参りますので、今後とも母校伝習館へのご支援ご指導の程、よろしく願い申し上げます。

平成26年3月進路実績 ()内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 133名			
京都大 (1)	九州大 (17)	筑波大 (1)	埼玉大 (2)
鳥取大 (1)	島根大 (2)	広島大 (4)	山口大 (2)
九州工業大 (2)	福岡教育大 (2)	佐賀大 (30)	長崎大 (16)
熊本大 (18)	鹿児島大 (6)	琉球大 (1)	国際教養大 (1)
尾道市立大 (1)	県立広島大 (1)	下関市立大 (3)	山口県立大 (1)
北九州市立大 (9)	九州歯科大 (1)	福岡県立大 (4)	福岡女子大 (2)
宮崎公立大 (1)			など

私立大学合格者 543名			
早稲田大 (5)	慶応義塾大 (2)	国際基督教大 (1)	上智大 (1)
青山学院大 (1)	明治大 (11)	津田塾大 (1)	中央大 (8)
東京理科大 (5)	立教大 (1)	法政大 (4)	芝浦工業大 (5)
同志社大 (22)	立命館大 (44)	関西大 (8)	関西学院大 (5)
西南学院大 (67)	福岡大 (136)		など

準大学校合格者 12名	
防衛大学校 (9) (1次合格者75名)	防衛医科大学校医学教育部看護学科 (1)
水産大学校 (2)	

公務員合格者 3名		
国家一般職 (1)	福岡県職員 (1)	一般曹候補生 (1)

文武両道ここにあり!

進路指導主事 川口勝久

伝習生は、8割強の生徒諸君が部活動や生徒会活動をしています。例えば、今春の九大現役合格者15名中12名が、生徒会会長・副会長、バスケットボール部・陸上競技部(九州大会8位)・テニス部・弓道部・吹奏楽部・美術部・化学部で3年間それぞれの技と心を磨きました。また、大学合格者の大半が部活動・生徒会活動・学校行事などに汗を流し、生涯の絆を深め、数々の輝かしい実績をあげています。

これも同窓生の皆様が社会人講演会や東京修学旅行での交流会などを通じて、生徒に大きな夢と高い志を持たせてくださったおかげであり、この場を借りて御礼申し上げます。今後とも、同窓会の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。(本年度の主要大学の合格者数は左記のとおりです。)

先輩・後輩より

燦然なり!!
美熟女の集い
 柳河高等女学校昭和十四年に
 卒業された高女39回生
 中48 宮本弘道

柳川の清らかな水を産湯に使い、柳の緑にまとう風の音色に、乙女の夢を託して、柳河高等女学校に学び、そして学業を終えられました。その後は、夫々のいろいろな人生を辿られました。時を経て、東京近郊にお住いの高女39回生のクラスメートの集まりが、ある時から始まり、現在も尚、続いております。お年92才の皆さんです。全く驚異です。美人薄命は昔の譬え、現在は、美人長命では……肖りたいものです。この集りの歴史も定かではありません。名前もありません。ただ39回生の幟の下、相寄り集って二十有余年の歳月を閲して今日に到っているようです。

現在のメンバーは写真の方々です。(随行者2名を含んでいます。)年間3〜4回位のペースで集まっています。以前は、田中信夫氏(メンバーの故田中愛さんの弟で中学49回卒です。)が参加されていました。小生はメンバーの杉野葉香の弟である関係上、5年程前に、姉に誘われ、参



写真：後列右から檀ふみ、檀ヨソ子、西山五百枝、前列右から宮本弘道、杉野葉香、秋山育子

加したところ、その後、檀ヨソ子様より続けて出席するように、との葉書を頂戴して以来出席しています。(ゆめゆめ、ふみさんを目当ではありません。為念) 男の会と違って、全く思いつくまま身辺些事をだらだらと語り合って、笑いころげ、相槌を打って、次の方の話を聞き出したりしています。井戸端会議の様相です。でも、これが肩もこらず楽しいものです。会の終りが近づくと、又次も集りたいというような雰囲気になってしまいます。そして又誰かが「集ろう」と声をかけて集るような状態です。「流れのまま、気の向くま、」と表現したら、当るかも知れません。多分、いつの日かこの集りは消え入るように終末を迎えるに違いありませんが、それまでは、まだまだ続けるつもりです。

年が明けたら、誰かが声をかけてくる

昭和28年卒業の我々高4回生は、新制中学から新制伝習館高校に入学した第一期生であった。従って旧制中学1年から伝習館で学んだ上の学年と比較し、かなり低レベルの教育しか受けてこなかったように思う。伝習館に入学するまで、先輩に鼓舞され、指導されるような事も無かった。そのような事情もあって、伝習館に入学して、まず、1年上に仰ぎ見る先輩達が数多く居たことに驚嘆した。そのなかでもとくに異彩をはなっていたのが、広松渉、白井朗の二人であった。社会科学研究会に入会し、1年生のわれわれは、二人に衝撃的なインパクトを受け、「自我あるいは個の自覚」ともいえるべき精神的変革を経験することになった。学校の勉強そのもので、哲学、政治、経済、社会思想に関する読書に没頭した。

**いま、白井朗さんに、
 哀悼の辞を**
 高4 渡邊喜亮

に違いありません。それを期待しながら、紹介の記事を終わります。
 末筆ながら、母校の発展と同窓の皆さんのご健勝を祈念してやみません。

ふたりは、当時すでに日本共産党に入党し、2年生ながら、GHQの弾圧に抗議する反戦ビラを配布したことで、処分され、広松さんは伝習館を除籍（退学）、白井さんは無期停学となった。その後、広松さんは、大検合格、曲折を経て東大に進み、活動家としての実践からはいくらか、距離を置きつつ、各方面で、論陣を張ってこられた。ただ、東大教授となつてからは専ら、アカデミズムの域に籠り、哲学の総体系化を試みるという壮大な夢を持つも、志半ばで、鬼籍に入られた。この広松さんについては、周知のこと故、先年、同じく病をえて亡くなった白井さんについて、今回、述べることにしたい。

伝習館処分について、広松さんには家庭内の軋轢はなかったようであるが、白井さんは、父上が九州大学の教授、ご母堂のほうは地元杉森高女校長の任にあり、当時、一方ならぬ叱責を受け、厳重な監視の下に置かれたと伺った。白井さんは、学業を傍らに、学生運動に身を挺し、強い自己の信念にもとづいて、先鋭な革命運動を展開し、法政大学在学中から新左翼の旗手として頭角を現してこられた。1960年、36歳で、革共同政治局員、「前進」編集局長などに就き、指導的立場で活躍されるなか、69年、破防法の個人適用により、以後、非合法活動に転換を余儀なくされた。

しかしその後、スターリン主義の誤謬を指摘、以前からの疑問に決着をつけ、さらには、輝かしい革命指導者とされてきたレーニンについても、実証的論考に

もとづき、これを否定するに至つたと述べられている。さらには、内部抗争などを契機に、新左翼の「党無謬と絶対化神話」と決別することになった由。そして、民族という課題に立ち向かい、マルクス・エンゲルスの方法論の原点に立ち返り、世界的、全地球的に歴史体系を構築したいとの野心を披瀝されていた。しかし、これまでに膨大な論文に加え、「20世紀の民族と革命」と題する大冊の著作を上梓されており、半ば達成されたと言えないであらうか。ただ、その後のレーニン批判などの理論的進化を次の著作で展開され、白井さん固有の歴史体系の構築がなされることを期待していたが、志を得ずして、この世を去られることになった。痛恨の極みである。

いわば草莽の士として、時代の社会規範に異を唱え、体制変革に身を挺してきた白井さんの志と行動は、一時代を画することとなった……。故人在りし日の、知へのあくなき意欲と類まれなる魂の高潔さに改めて感動しつつ筆を擱く。

追記

実は、白井さんとは、50年以上もの間、音信もなかったが、2006年のグランドパレスでの東京同窓会で、思いもかけず、再会し、後日、いくつかの論文等の惠贈に与かった。この新しい機縁に、上野近くのおでんやで、在柳の古賀誠君（弁護士）の上京を待って、白井さん、荒井、渡邊の4人で歓談する機会を得た。まさに、半世紀の空白を埋める邂逅となつ

た。それ以来、白井さん健在の間、四人の会は続いた。

立花家の「歴史をつなぐ3つの物語」

高5 下河秀行

四日は、霞が関ビル三十四階 華族会館を前身とする「霞会館」でトークイベントと晩餐会があった。

宗茂、寛治、和雄の歴史を：

まず最初に、二代当主宗茂公生い立ちや生涯、そして十四代当主寛治氏の農業政策、十六代当主和雄氏の戦後の再建等について、現在まで記録として残されている数々の貴重なムービー（ほとんどがモノクロ動画）と、歴史的なお話を十七代現当主立花宗鑑氏解説によるトークイベントがあった。

平成二十六年十一月十四日（金）、十五日（土）の両日、立花財団（理事長 立花宗鑑氏）が主催する第一回立花氏庭園友の会会員限定特別企画「歴史をつなぐ3つの物語ツアー（東京編）」が行なわれ、私も江崎正直伝習館東京同窓会長と共に、立花家の歴史を詳しく知りたくて参加した。

遠来の柳川からは、金子健次柳川市長、高田啓介人事秘書課秘書室長、松藤満也観光課長などが出席して、初日の十

「立花家の歴史をつなぐ3つの物語」の概要をつかむことが出来て学ぶことが多かった。ここで最も印象に残ったのは、文子姫と和雄氏の結婚式の模様で、結婚式の行列の模様を一目見ようと市民の長蛇の列の凄さには驚いた。それと第二次大戦後の農地改革が実施されたため、百十数ヘクタールの農地を手放し、料亭旅館「御花」を開業した頃の財政の苦しさなどが詳しく話された。

翌日は、宗茂の実母 宋雲院へ

翌十五日（土）は、晴天に恵まれて、早朝から立花家ゆかりの地巡りで、上野駅近くの台東区東上野4丁目の臨濟宗大徳寺派 宋雲院に集った。

宋雲院は、立花宗茂の実母宋雲院を開基、広徳寺3世大徳州甫和尚大禪師を開祖とする。慶長16年（1611）江戸で没した宋雲院の菩提のため広徳寺内の一院として宗茂が創立した。福と知の仏、虚



歴史をつなぐ3つの物語案内書



立花氏庭園友の会トークイベント全員写真

れる。その後、徳川家康が二世希叟和尚を神田に招き再興、寛永12年（1635）下谷に移され、加賀前田家をはじめ諸大名を檀家とする江戸屈指の大寺院となった。大正12年（1923）関東大震災で焼失しその後区画整理のため現在の練馬区に移設された。

当日は、本堂で法事があり、広徳寺内を見学し、立花家の墓所にお参りし、広徳寺大書院（旧加賀藩主前田家邸）で昼食と、お茶をいただき、練馬を後にした。

台東区に広大な立花屋敷跡：

再び台東区に戻り、朝日信用金庫西町支店ホールにて、地元台東区民による歓迎会があり、地元にある旧柳河立花藩の広大な大名屋敷図や立花家に縁があり、西町にある「西町太郎稲荷神社」を見せて頂いたりして二日間に亘るイベントを終了して解散した。

私は東京に移住して二十年余りになるが、この二日間に亘る立花家ゆかりのイベント「歴史をつなぐ3つの物語」は、私にとって正にサプライズの連続であったし「立花家・歴史再発見のツアー」で

空蔵菩薩」を本尊とする。

まさか練馬区に広徳寺とは：

その後、ライトバスで移動し、練馬区桜台6丁目にある広徳寺を訪ねた。広徳寺は、柳河藩の江戸時代の菩提寺である。北條氏政の子、岩槻城主太田氏房が明叟和尚を小田原に招き、早雲寺の子院として開山したのが創建で、天正18年（1590）小田原城落城時に焼失したとき

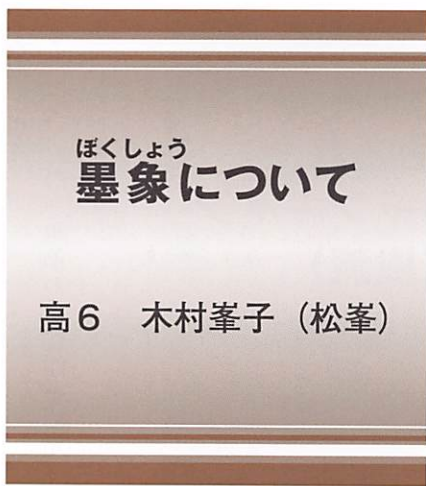


広徳寺
東京都練馬区桜台6-20-19

もあった。

今回は、立花財団による完璧な企画とその準備と、おもてなしの心に変な感動して帰宅した。

（練馬区在住 柳川観光大使）



墨象とは自身の心象を表現・文字とい



2014年
縦74cm×横94cm
日本芸術選抜美術賞

聖火のファンタジー（幻想）

ソチでのオリンピックで大活躍をした羽生結弦選手が、フィギュア男子で見せた演技のすばらしさに感激して、聖火のファンタジー（幻想）を描きました。

イメージからの脱却、次々と生まれてくるインスピレーションを形にしていくなのである。文字という障壁がないので、外国人にも理解されやすい。二〇〇三年「ル・サロン」（ルイ十四世時代に創設され、三百四十年の歴史を誇る、世



2014年
縦192×横120
書道芸術功労賞

森羅万象

遠い宇宙に向けて、平和への無限のメッセージとして描いてみました。



2014年
縦230cm×横120cm
国際美術貢献文化賞

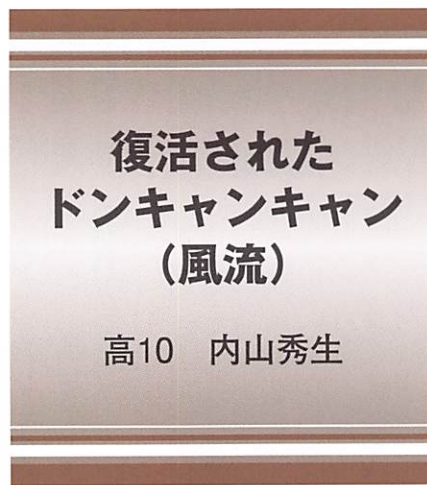
カオス（混沌）からの脱却
混沌とした世界が希望に満ちた世界へと広がることを願って墨象で表現しました。

界最大、最古のフランス芸術家協会）展に出品連続入選、協会の永久会員に推された。この協会の会員には、ミレー、ルノワール、セザンヌ、マネ、モネ、作家のモーパッサン、彫刻のロダン、カミーユ・クロードル等々、歴史上有名な芸術家が名を連ねている。又、二〇〇八年、世界三大美術館の一つ、スペイン国立プラド美術館より、芸術家功労認定証が贈られて来た。この認定証は、プラド美術

館芸術家会員二三五名の中で、二七人目の授与とのこと。国際的に評価されたことを、有難く思っている。思うに、かな文字であれ、墨象であれ、書くという事は、筆を通し



江上神社で奉納



気を入れることである。気が込められていない作品からは、人に訴える力が伝わらないと思う。ここに、二〇一四年の受賞作を紹介させていただきます。



琴奨菊の実家で



太鼓打ちと鬼

私が育った所は柳川市佃町（旧山門郡東宮永村佃町）である。部落（集落）は佃町、古川で一つの単位である。古川は大関・琴奨菊の実家がある所だ。佃町の江上神社は江戸時代、延享元年（1744年）に造られ、270年余経つことになる。この江上神社の秋の例祭がドンキヤンキャン（風流）である。佃町のドンキヤンキャンは昭和54年を最後に中止となり30年のブランクがあった。ところが4年前、高16回横山隆美さん達を中心に復活がはかられた。復活させるためには、皆さんの協力と相当なご苦労があったと聞く。あの懐しいドンキヤンキャンが今年も佃町、古川を中心に近隣部落まで各家を奉納して廻ったという。復活後は「江上神社風流保存会」を結成。44名の会員が保存活動が続いている。途切れることなく、いつまでも続いて欲しいものだ。（写真提供 内山純男）

趣味を持ちましょう

高12 馬場康子

子育てが一段落して時間に余裕が出来ましたので、何か習い事と思いついた

のが、若い頃より興味があった茶道でした。幸い伝習館の先輩（清水禎子先生）が近所で江戸千家茶道教室を開いておられたので御指導を受けるようになりました。

江戸千家流とはあまり馴染みない流派ですが、京都で表千家流を修行していた茶を八代將軍吉宗の頃紀井藩江戸家老小野家の茶頭として江戸で広めたのが流祖の川上不白です。武家の出だったので武家社会に拠点を置き武家から町人と広まっていき脈々と現在に至っています。それ故男性的なお点前といます。以来先生が引退されてから又別の先生を紹介され現在もお稽古に行っています。

茶道のお稽古と申しますが、床の掛物の軸は禅語が多く書道にも通じ読み下しもあり、床の花は生花と違い野にあるようにと野趣に重きを置いています。又茶懐石で料理が付きもので難しいものです。着物の着付け身のこなし立居振る舞い等お点前だけでなく付随するすべてに気配りとなかなか大変です。

茶道とは「究極のおもてなし」と言われる由縁です。又月々の行事、一月の初釜、お花見茶会、初風炉、浴衣ざらい、月見の茶会、口切り、炬開き、納会等まだまだあります。他の茶会に何う事もありません。でも好きだから続けたいものです。でも好きだから続けたいです。何も無かったら無為に過ごしていたでしょうし仲間も出来ず井の中の蛙になっていたかも。専業主婦でやり繰りは大変でしたが一人の人間として持つ空間は得難いものです。現在は仕事でも何も考えられない、そんな時間は無い、もう今更と足踏みしてある方も、今から

でも遅くはない。とに角何でもいい一歩前へ進んでもらいたい。趣味を持つてもらいたいものです。

中年おじさん5人組のシンガポール紀行

高18 古賀行夫

それは2014年3月、渋谷での同期十数人の飲み会の終盤で唐突に起きた。

「誰かシンガポールに旅行に行きたい人はいませんか？」「夫婦や友人の参加でも構いません」ん？ まるで、かくれんぼするもの、この指つもれの感覚で：

F君の突然の提案に、私はおぼろげと手を挙げた。なぜ「おぼろげ」か、と言うと、スイス・イタリア旅行では、本場のイタリア料理が食べられると楽しみにしていたが期待はずれ。ハワイ、香港、サイパン、グアムも同様、だからこのところは、まだ行ったことのない国内旅行に気が向いていたのでした。でも20年前に7年近く勤務していたF君が案内してくれるから、ということだ。

そして半年後の9月11日～15日（4泊5日）、いよいよ中年おじさん5人組（福山、石川、満生、十時の四君と私）の旅

が始まりました。（本稿は3分の1の要約版）

① ジュロン・バードパーク

地下鉄カード（スイカと同じ）で地下鉄に乗る。通勤客で混雑している車内はいろんな言語が飛び交っている。英語？中国語？マレー語？ヒンズー語？さすがに多民族国家で、車内の案内文も3カ国語で表示あり、日本語しか喋れない私にはさっぱりわかりません。でも、地元の人と同じ交通機関を利用して観光できることは楽しみです。

バードパークは、世界でもトップクラスの鳥類動物園だそうで、20ヘクタールもの広大な敷地に600種以上8000羽を超える世界中の鳥たちが集められているそう！確かに見たことのない鳥たちがたくさん放し飼いにされている。特に猛禽類のオープンエリアでのショーでは大鷲やフクロウ、鷹が迫力ある音楽に乗り、かなりの数で頭上を飛び交う様には驚いた。よく飼育慣らされて訓練されているものだ！

それにしても気温、湿度とも異常に高い！（90%以上あるようだ）使っていた扇子が湿気でへたってしまったのには、さらに驚いてしまった。

だから昼食のオープンテラスでのタイガー・ビールの進むこと！進むこと！ピッチャーで4杯も。注文したシンガポール料理が辛かったせいもあるが…。

② ベッドメイク

初日に、ホテルで3人部屋なのにエク

ストラベッドが入っていなかったが、2日目もまた別の事件が起きていた。なんと、外から帰ってきたら、ベットメイクがされていない！ またもやF君がフロントに確かめると、「頼まれていない！」との返事。この国では頼まないとやらなののか！ この対応、我が国では「開き直り」と言うのでは？ 一流ホテルでこの調子だと、日本の進出企業も苦勞するよね。

③うわさのドリアン

ドリアンは「玉ねぎが腐った臭い」と言う者もいたが「値段が高くて新鮮なものはそのことではない」と言うF君の言葉信じ、いいモノを店主に選んでもらうことにした。我々の頭程の大きさの2〜3kgの固く大きいとげがある物体をナ



タでたたき割って、硬い皮を手際よく剥いでいく。臭いは特にならない。食べ方も独特で、使い捨てのビニールの手袋を使って食べると言う。手触りはグリースのように、ねっとりとしており、大きな種の周りの果肉を口に入れると、なかなかの美味である。これが果物の王様の味なのか!? ドリアンは、「値段の高い上質な物は匂いも良く美味しいのだ」という結論に達した。ところが、好奇心の強いM君が、それでは安物を食べて「本当に臭うかどうか確かめよう」と言いだし、安い値段の小分けしたパック詰めのだリアンを買ってきた。結果は、「食べ比べる順番を間違った」との判定で幕。ドリアンの試食ツアーなんて普通はないよね。貴重な体験で、良かった。但し、げっぶは勘弁ね。

④由緒あるラッフルズ・ホテル

ホテルの広い敷地を迷いながら、やっと二階のロングバーに辿り着いた、名前のとおり確かに長いカウンターがありテーブル席を合わせるとかなり広いスペースである。奥のテーブルに案内され、ふと天井を見るとビロウの団扇が優雅に作動しており、風格と落ち着きを醸し出している。

此処は、「憧れのラッフルズ・ホテルのロングバーで、本場のシンガポールリングを飲みたい」と、お洒落なM君が羽田を発つ時からのリクエストであった。

注文して出てきたのはなんと、ロンググラスに注がれたピンク色の飲み物でパ

インとチェリーを飾り付け、ストローまで刺してある。飲みやすく美味しかったが、中年の男五人がそろって飲んでることに周りの目を気にしてしまった。

しかしである。くつろぐ前にカルチャーショックはバーに入ってからすぐあった。通路やテーブルの下にはピーナッツの殻がところ構わず散乱している。客が、食べた殻を足元に捨てていたのである。この状態にきれいなI君はずい分とご立腹。

だが、記念写真を撮ってもらう時に、ウェイターがテーブルの上にわざとばら撒いたことで、ははあ、このホテルの伝統なんだとやっと理解できた。

次の日は、中庭にあるオーブンテラス、照明に浮かぶ庭は幻想的な雰囲気大人の世界！ そこで注文したM君のジントニクに、緑色の切れ端が沈んでいる。私が「キュウリのはいつとらん？」と聞くと「そんなバカな！」と強く否定しながらも、取り出して見ると、やっぱり「キュウリ」やった。ええッ!!

その翌日にまた行ったときにも、私のジンライムにキュウリが入っている。この国ではジン（特に英国産？）にキュウリを添えて飲むのが伝統なのか？ …日本に帰ってきて、それは正しい飲み方であるを知った。でもF君が言うには、涼しい顔をしていることを英語で「アズ・クール・アズ・キュウリカンバー」って言うから、涼しく飲むためにキュウリを入れるんじゃないのかなあ。」ってホントかな!?

⑤マレーシア・ジョホール観光

ツアーバス車内での案内を少し記述すると… シンガポールはマレーシアに比べて賃金が高いのでマレーシアから働きに来る人が多い。物価はマレーシアの方が安いのでシンガポールから買い物に出かける人が多い。特に、ガソリンは非常に高いので市民がマレーシアで給油して帰って来ないよう、出国時に車には4分の3以上のガソリンが入っていないとなければならないとの法律がある由。

よく考えたら、人間はどうなのさ？ 腹ペコで国境を越えてはいけないの？

国土の狭いシンガポールは、治水事業が難しいようで、水はマレーシアから購入し自国で浄化、その水をまたマレーシアに輸出している。そのため太いパイプラインが海峡に広い土手道に3本走っている（2本が輸入、1本が浄化した輸出用）。

市内観光は、マレーシアの中でも最も美しいというモスクを見学したが、なんとそこには日本の三州瓦が使われている。そこで親近感を覚えた。

ジョホール水道を眺める丘からはわずか1キロメートル先にはシンガポールという外国が見える。国境を知らない私は、何とも言えない心地になった。

⑥高級中華レストラン「利苑」(レイ・ガーデン)

初めて食べる「グリーン・チリ」、これが程良く辛くてうまい。自家製の言わば青唐辛子の輪切り醤油漬けで、お代は只らしいが、地元の人しか頼まない通の



スパイス。
極めつけは丸焼きにした北京ダック！
ナイフとフォークで外側の焼いた皮を上
手に切り分ける人、それを受け取り餃子
の皮で挟んで大皿に盛り付ける人、二人
のお姐さんのワザに見とれています。さ
っそく老酒を注文！ 改めて乾杯！ や
はり鴨にはネギと味噌を付けて、これま
でに経験のない味と食感の北京ダックを
頂きました。続いて、上海蟹！ これも
美味しい、老酒がススミ、もう1本！
まだまだ料理は来るのだが…（割愛しま
す）。…そこには満足感に満ち溢れた男
たちの顔がありました。

最後に、一緒に行った同期の皆さん、
お世話になりました。まさか高校卒業か
ら40年近く経って東京で再会し、今回旅
行、しかも海外旅行なんて夢にも思わな
かった。これも同窓会のお陰かと感謝し
てます。そうそう、ツアー企画、旅行手
配、会計、そして通訳・専属添乗員とし
て案内してくれた「晴れ男」のF君、お
陰様で天気も良く最高に楽しい旅になり
ました。有難う。また連れてってはいよ
おう。

（あとがき）
家に着いて、家内にF君オススメのお
土産を渡し、早速「ラッフルズ・ホテル
のシンガポールスリング」の話をしてあ
げたら…。

「あらッ！ ゴディバのチョコレート、
ありがとう！」ここまではまだイイ。
続いて出た言葉は「シンガポールスリ
ング？ わたし、知ってたわヨ」ときた。
…なにイッ、知らなかったのはオレだ
けかヨ！

前2回は映画篇①として『ウエスト・
サイド・ストーリー』を前篇・後篇の2
回に分けてお話ししましたが、今回は映画
篇第2弾、西部劇の名作『荒野の決闘』
の話です。

（今回の仮想インタビューアは人気女子
アナの内田恭子さんです。）

《第1章》

—こんにちは、初めまして内田です。
今日はよろしくお願いを致します。
「初めまして、いつもTVで拝見してお
ります。昔から大ファンで、笑顔、声、
知性、スタイルとも大好きです。」

—ありがとうございます。私のことは
後ほどにして、早速ですが今日は西部劇
のお話を伺えるということですが。

「はい、小中学校の頃から『八十日間世
界一周』や『素晴らしい風船旅行』など
の冒険映画の他に、特に好きだったのは
西部劇でした。『誇り高き男』、『アラモ』、
『荒野の七人』、『駅馬車』、『西部開拓史』
等々、どこに誰と観に行ったかまで今で
もよく覚えています。中学校に入った
頃、アメ横でモデルガン一式を親に買っ
て貰い、好きなゲリー・クーパーを真
似て早打ちの練習をしたり、親父のソフ
ト帽をカウボーイハットに変造してガン
マン・スタイルで写真を撮ってもらった
り…、また本や雑誌で色々西部劇の勉強
もしました。いわゆる西部劇キチガイで
した。もちろん西部劇の音楽・歌も好き
で、英語のRawhideやDead or Alive

などの意味を辞書を引いて覚えまし
たし、『遙かなるアラモ』（ブラザース・フ
ォア）と言う歌の歌詞は、実は映画のア
ラモとは全く関係ない内容であることも
調べて分かりました。」

—おやおや、色々な面で相当マニアッ
クな感じの少年だったんですね。西部劇
映画のベスト・スリーは何ですか？

「『荒野の決闘』、『駅馬車』、『真昼の決
闘』の3つです。これら3作品はいずれ
も今から60年〜70年以上前の白黒映画で
すが、単なる西部劇でないところが名作
と言われる所以でしょう。今日はその中
で私も映画評論家も一番に推す『荒野の
決闘』のお話をしましょう。」

《第2章》

—『荒野の決闘』って観たことがない
んですが、どんな映画なんですか？

「映画の原題は『マイ・ダーリン・クレ
メンタイン』と言い、1946年製作、
かの巨匠ジョン・フォード監督の作品で
す。主演はヘンリー・フォントで、ワイ
アット・アープという西部開拓時代の実
在の保安官（USマーシャル、シェリフ）
をモデルにした映画で、拳銃の撃ち合
い、インディアンとの戦いなどの場面が
ある、ありきたりの西部劇ではなく、抒
情的ロマン派西部劇とも言うべき哀感と
郷愁をしのばせる情景、そして西部男の
淡い恋心が詩情豊かに描かれている映画
です。西部劇というよりも、恋愛映画の
舞台を西部に持ってきたという言い方
の方が適切かも知れません。だから原題も

『青春のパイプライン』

《映画篇Ⅱ 前篇》

高18 福山博彰

そうなっているのかも。この邦題は舞台が西部で西部劇映画の全盛期だったので、そう付けたのでしょう。画面は白黒で、カラーフィルムより古き良き時代を偲ばせる趣があります。

因みに、1960年前後に流行った、カウボーイが主人公のテレビ西部劇『ローハイド』、これは道中に起こる様々な事件・問題をどう解決していくかという点で、大変タメになるドラマでした。」

—なるほど。で、映画は具体的にはどういうストーリーなんですか？

「ちよつと活弁士風に語りますと：時は1881年、無頼漢がのさばる西部の街カンザス州のドッジ・シティで保安官として治安を回復し、一躍その名を天下に轟かせた凄腕ではあるが普段はもの静かな西部の男ワイアット・アープは、今は数千頭の牛を数百km以上も運ぶ牛飼（カウボーイ）となつてツームストーンという西部のとある小さな町まで辿りつきます。しかしそこで自分の牛が全て盗まれ、更には一緒に働いてきた弟を何者かに殺されてしまったため、その町で一度は断つた保安官職を引き受けることとなります。そして弟の殺害がその土地の大地主であるクラントン一家の仕業であることをつきとめ、罪を認めない彼らと遂にOK牧場にて銃で決着をつけることになるのであります。この間、東部で医者となったが結核にかかり自暴自棄となり、今や賭博師に身を落としている男ドク・ホリデイ、そしてこの男を捜し

遙々西部の町まで追ってきた元許嫁の可憐で清楚な美人看護婦のクレメンタイン

さんが登場するのであります。そしてアープは彼女に出逢い一目惚れ、淡い恋心を抱くのでありますが、果してOK牧場の決闘、撃ち合いに赴いた彼の運命や如何に……。はたまたアープの恋の行方は如何に……。」

—へえ、そうなんですか、ガッツ石松さんのギャグ「OK牧場」というのは、これから取つたものですか？

「え？ そこが一番興味ポイントですか？ 参つたなあ。いや、まあ、いいですけどね……。その通りです、映画のOK牧場から来ています。同じ題材で『OK牧場の決闘』『墓石と決闘』『トゥームストーン』『ワイアット・アープ』など十数種類の映画があるんですが、『荒野の決闘』が最高の出来です。」

—OK牧場のOKとはどういう意味なんですか？

「え？ どうしてもOKに拘りますね。英語ではオー・ケー・コラルですが、そもそもツームストーンの町は駅馬車などの中継基地だったようで、取り換え用の馬を飼育・待機させていました。すぐ交換できるという意味で、ある会社がOKという商号を使っていたという説があります。コラルは牧場と訳しています。実際には丸太などの木枠で囲った馬や牛の家畜置き場です。この映画を観ればいわゆる広々とした草原の牧場ではなく、町はずれの土煙の立つ狭い場所であることが分かります。」

《第3章》

—この映画の主人公は実在の人物がモデルだということですが、どういう人だったんでしょか、そんなに有名だったんですか？

「ワイアット・アープは無頼漢のさばるドッジ・シティの治安を回復しましたが、一頃流行った映画、ロスアンジェルス警察の凄腕警官ダーティー・ハリミに、正道をちよつとはずした荒つぱいやり方だったみたいです。銃も早射ちで悪漢どもには非常に恐れられていた人物のようです。映画では、クラントン一家が初めて彼と出会った時に、その正体を知らずに、一体てめえは誰なんだと凄んで聞きますが、彼等がその名を聞いた時、一瞬ギクツと目をむいて唾を飲み込むシーンがあります。こいつがああ有名なんだという奴が来たものだ、何しに来たんだという彼らの表情でその名が広く知られていたことが演出されています。ここはこの映画の見どころのシーンの一つでもあります。」

アープは1929年、80歳まで生きていて、いわば西部開拓時代の生き証人として自分の伝記も書き、それを基に先の通り多くの映画が作られています。ジョン・フォード監督も生前のアープとは親交があったそうです。」

—他に面白いシーン、見どころはどんなところがあるのですか？

「随所に興味深いシーンが満載です。抜粋して申し上げますと、先程のシーン、それから、酔っ払って銃をぶつ放す暴漢に対して何もせず、保安官職を捨てて逃げ出す保安官がいるのですが、ア

プが彼に代つて沈着冷静に暴漢を取り押さえるというシーンがあります。この行動を見込まれて町から保安官職を頼まれるのですが、一度は断ります。」

実はこのシーンが私には1954年の『七人の侍』で志村喬演じる勘兵衛が僧侶に扮装し、赤ん坊を人質に取つて引きこもっている盗人に沈着冷静に対応し、油断をさせた隙に打ち伏せて無事に赤ん坊を助け出す、あのシーンに重なるんです。黒沢監督もきつとこの西部劇を観ていて、同じイメージで侍のシーンを描いたに違いないですね。もつと話しますと、『七人の侍』を基にして西部劇にした『荒野の七人』ではユル・プリンナーが勘兵衛にあたる役を演じており、馬車の御者の護衛に当たると同じ様なシチュエーションの場面がありました。」

《第4章》

—冒頭にお話しになっていた、拳銃の撃ち合いなどの場面がある、ありきたりな西部劇ではないという意味は具体的にどういうことですか？

「二つ意味があります。一つは銃撃戦のシーンは西部劇でよくある、二人が向かい合つて早射ちを競うものではなく、実戦に則した演出です。例えば物陰に隠れて撃ち合いますし、弾倉には6発しか入らないので撃ち合いの間に弾を入れ替えるなどのシーンもあります。」

二つ目は、抒情的ロマンの香りを持ち込んでいます。西部の田舎町の教会広場でのクレメンタインとアープとの

ダンス・シーン、アーブのぎこちない不器用な会話や目の動きが既に恋心を漂わせており、微笑ましいシーンもある、ということですよ。」

―なるほど、メロドラマ的雰囲気もある西部劇なのですね。ほかには？

「はい、見どころのシーンは他にもあります。酔っ払いの無頼漢に銃で脅され、台詞の言えなくなったシェイクスピアの旅芸人に代り、ドク・ホリデイがハムレットの台詞を滔々と続ける場面があります。一見コワモテの顔で如何にも剛腕な賭博師としての顔しか知らない町の人々（と我々観客）が、実は彼が教養あるインテリであることを示すシーンなど、ほお〜と感心して観てしまいます。」

ついでにシェイクスピアに関して言えば、旅芸人がこの町を去る時に馬車から、グッドナイト・〜・パーティング・イズ・サッチ・スウィート・ソウ・〜と別れの言葉を発します。これは『ロミオとジュリエット』の中でジュリエットがロミオとの別れを惜しんで言う台詞で、日本語だと『別れはかくも甘い哀しみ』と訳されています。

でも、私がこういう台詞を言っても一向に興味を示さない、何の反応もしない女性がいるんですよ。何のことも言ってるのか分からなにかなあ。〜。」

―へえ、そうなんですか、『七人の侍』との関連やシェイクスピアの台詞がさりげなく使われていることなど、すごく興味深いです



ドッジ・シティ・ポリス・コミッション
実在写真（前列左から2番目W・アーブ）

秀吉をして「その忠義鎮西一、その剛勇、また鎮西一」誠九州之一物二候——立花文書」と言わしめた立花宗茂。徳川三代も下にはおかず、信認を受け、改易されながら、唯一旧領復帰を果たした好漢である。作家・海音寺潮五郎は宗茂を天才的な戦上手で、出処進退も実に清潔、最も尊敬すべき武將と称えている。筆者は立花宗茂もの（最近では葉室麟著「無双の花」）を読んで、勇将にして廉潔かつ信義一筋の魅力溢れる人物に愛着を深めている宗茂ファンである。しかも伝習館とは縁の深い筑後柳河藩の藩祖だ。後半生の大半を將軍家の傍で過ごした宗茂のゆかりの地、江戸立花家上屋敷跡、さらには宗茂の江戸の菩提寺となった広徳寺などいつか訪ねようと思っていた。折よく「江戸・東京 立花家ゆかりの地めぐり」が立花財団・立花氏庭園友の会（※）により企画され、11月半ばに実現した。本稿は、その探訪記である。（この稿は下河秀行氏の稿と重複するところありますがご容赦を）

江戸—東京
立花家ゆかりの
地めぐり
高21 北島正常



宋雲院

【宋雲院】
上野駅から徒歩5分。一行は最初に宋雲院（山本文溪住職、台東区東上野4-1-12）を訪ねる。台東区役所のそば、江戸立花上屋敷と下屋敷の間に位置する。大正時代まではこの地にあった広徳寺の一院で、その名残をとどめている。宗茂の実母みほ（慶長16年没）が開基となった臨済宗大徳寺派の寺院で、開祖は広徳寺三世大徳州甫和尚大禪師。宗茂は州甫和尚に帰依しており、当院は母の菩提を弔うために創建された。宗茂の母は数奇な生涯を送る。夫・高橋紹運が島津勢に抗戦し、たて籠る岩屋城が落城。紹運は自刃して果てた。宝満城にいた弟直次（統増）と母は島津の捕虜となった。島津・星野勢は宗茂の母を先頭に押したて、立花城に攻め寄せる。立花勢は敵の出兵を見て巧みに戦い、宗茂方武將、十時連貞が母を奪還、その後逆襲した立花

勢は星野吉美が籠る城を落とした（母は北関に、直次は薩摩に連れ去られた説もある）。関ヶ原の西軍敗戦の際は、大坂で人質となっていた母を宗茂自らが役人より奪い返し、柳河に帰還している。宋雲院の創建には何度も生死に関わる苦勞をかけた母に対する宗茂の深い謝意の念が込められている。

【広徳寺】

つづいて菩提寺となった広徳寺（正式名・円満山広徳禪寺、練馬区桜台6-20-19）へ向かう。広徳寺は徳川家康が北条家と縁の深い小田原・広徳寺を神田に1591年に再建。寛永12年（1635年）には下谷に移る。前田、立花、織田の大名家を檀家とする大寺院で、太田南畝の狂歌に「びっくり下谷の広徳寺」と詠まれたほどの広大な敷地を有した。今練馬区にあるのは関東大震災で寺院が焼



広徳寺内立花家墓所

失。震災後の区画整理もあり、彼の地に移されたことによる。練馬に移った広徳寺は境内、墓地を合わせ、実に2万坪と都内最大級。それでも下谷時に比べれば3分の1ほどだという。同寺院の大名家墓は基本的には拝観謝絶となっているが立花家当主が法事を執り行われることでも一行も拝観が可能となった。寺院の奥には立花家をはじめ、大名十数家の墓所がある。立花家の墓所の石門には家紋の祇園守紋が刻まれ、正面右にはひと際高い宗茂の宝篋印塔（大円院殿松隠「蔭」宗茂大居士）、左には生母宋雲院の墓碑、手前には立花家の墓、近くには三池立花藩の墓地が見られる。もともと宗茂の遺骸は、戦後柳川の福厳寺に改葬されている。この墓地に眠る著名人は織田信雄、小堀遠州、前田利昌、柳生宗矩、柳生三厳（十兵衛）、小野お通がおり、宗茂と同時代を生きた人も少なくない。

【下屋敷と西町太郎稲荷】

広徳寺では加賀藩前田家より移築された大書院で昼食。続いて久留米の梅林寺で十数年修行を積まれたという海雲和尚が点てられた濃茶をいただく。午後には再び上野に戻り、1万6千坪あったという上屋敷跡地へ（台東区東上野1丁目）。当主宗鑑氏によると母・文子様は女子学習院時代、ここで暮らした。大正、昭和前半期には柳川出身の政財界人、学生などで構成される柳河学友会という親睦団体の建物や寄宿舎が立っていた。上屋敷跡を知るすべは一角にある西町太郎稲荷（東上野1-23-2）がポイントとなる。西町太郎稲荷は柳川から分社したもの。

本誌（2009年号）の「江戸・東京の中の柳河を訪ねて」における平河智氏の記述によれば、太郎稲荷の本社は、現在、柳川坂本町の日吉神社境内に鎮座している。これを分社して江戸の柳川藩邸に勧進したのが江戸の太郎稲荷の始まりである。この太郎稲荷は元は柳河城の天守閣跡「へそくり山」にあったという。

祠の前にある黄金色の案内板にその由来が書かれている。「当町は万治元年（一六五八）六一年）九州筑後柳河藩十一万九千六百石の太守立花左近将監が江戸上屋敷として設けた跡地です。当稲荷太郎は左近将監の母堂みほ姫の守り本尊として同邸内に建立されたものです。諸々の祈願事を叶え給い、特に商売繁昌にご利



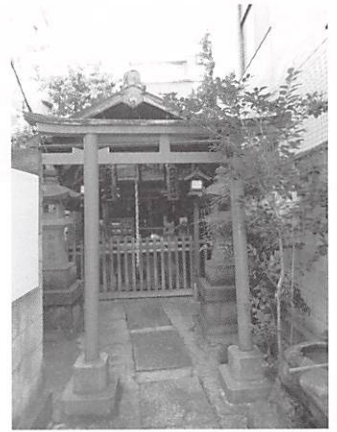
上屋敷跡にある西町太郎稲荷

益あらたかなところから江戸・明治・大正時代を通じて広くその名を知られ、多くの善男善女に熱く信仰されて来ております。現在も町内有志集まって由緒ある当祠の維持運営に務め、初午祭などが盛大に行われております」（台東区東上野1丁目町会建之 町会長木村金吾 昭和五十九年二月十一日 初午祭）。この太郎稲荷の建立にも母みほに対する宗茂の思慕の情が伝わってくる。

なお、下屋敷跡（台東区入谷2丁目、旧光月町）は予定されていなかったため、別の機会に訪れたが、こちらにも太郎稲荷が祭られている。この光月町太郎稲荷もまた、柳河から分社されたもので、西町太郎稲荷同様、特に昭和に入ってから、毎月午の日には縁日も開かれ、大変な賑わいを見せたという。

【江戸で復活を果たした宗茂】

改易後、浪人となった宗茂主従は慶長8年（1603年）、江戸に下り、住職が柳河の旧臣の家の出である高田の宝祥寺（現存、新宿区若松町38-1）を宿舎として蟄居生活を始める。翌年本多忠勝（または正信）の導きで、將軍・徳川家康に謁見、御書院番頭（將軍の親衛隊長）として仕官が叶う。その後、秀忠の御嚮衆となり、陸奥棚倉1万石を与えられ大名復帰。後に加増され3万5千石を有している。大阪夏の陣では秀忠の下で軍事参謀や警固を務め、敵方



下屋敷跡にある光月町太郎稲荷

とも交戦した。元和6年（1620年）には秀忠から旧領、柳川10万9千石を与えられ、西軍加担により改易を受けてから20年、旧領復帰を果たした唯一の大名となった。宗茂54歳の時である。秀忠・家光の時代には伊達正宗らとともに戦国時の経験を語る相伴衆を務め、將軍家の茶会や大名屋敷の御披露目に將軍の御伴をするなど側近並みの多忙さで、江戸に屋敷を構え定住、国元にはほとんど帰れなかったという。

寛永14年（1637年）の島原の乱では鎧武者姿で勇姿を現したが、鎮圧後の翌年には家督を養子・忠茂に譲り剃髪。寛永19年（1643年）、江戸・柳原（万世橋から浅草橋への周辺）の藩邸で胃癌のため没した。享年76歳、当時としては長命である。ちなみに上屋敷が設けられたという万治元年には宗茂はすでになく、忠茂の代に築かれたことになる。三百数十年を経て、宗茂の江戸での暮らしを思わせるものは少ないが、立花家を偲ぶゆかりの地や社寺は確かに存在し、今に伝えている。

※立花氏庭園友の会 財団法人立花財団

が主宰する、国指定名勝「立花氏庭園」と立花家資料館をより楽しんでもらうための会。友の会限定の特別イベントの参加や講座受講のほか、数々の特典がある。
URL = www.tachibana-foundation.jp

高校生との交流会 に参加して

高51 大曲由起子

年齢も背景も実に幅広い東京同窓会の皆さんに、また久しぶりにお会いできるという嬉しさと、単に自分が楽しみたいという快樂と、かわいい後輩に何かしらの助けになりたいという（余計な）お世話と、母校の先生方に在学中に大きな心配をかけてしまったという贖罪の思いが絡み合い、東京に越してきてから毎年交流会に参加し、気がつけば7回目の参加になった。初参加の時には「若手」とくくられていたが、いつの間にか「中堅」と区切られるようになった。

「高校生活で一番思い出に残っていることは何ですか？」

「苦しかったことはありますか？」
「部活と勉強をどう両立させれば良いで

すか？」
「授業で眠くなることにどう向き合うべきですか？」
等々、数ある質問の中に、

「自分は『内職』（ある授業中に他の授業の課題に取り組むこと）は良くないことだと思うが、成績が良い人がそれをしてるのを見ると、自分も『内職』をすべきか悩んでしまいます。私が悪いのでしょうか？」

という質問・悩みの共有があった。現役高校生は皆積極的に同窓生に聞いてくれた。たとえ同じ高校の先輩とはいえ、初対面の人にこのように素直に自分が普段思っていることをぶつけてくれるその素直さと勇氣に感心した。

最後は自分の目標、将来の夢を一人一人打ち明けていく、そのような場面も、担任の先生の提案で行われた。恥ずかしながらも、クラスメートの前ではっきりと「薬剤師になりたい」「NGO（非営利団体）で働きたい」「先生になりたい」と答える目の前の16歳、17歳を前に、「ああ、自分が今現役生としてここに座っていたら、なんて答えていただろう」と思いを馳せていると、胸が熱くなった。

質問をする高校生も真剣だが、それに答える先輩も実は真剣勝負なのだ。

「私立大学にも興味があるが、お金がかかるのでやはり国立大学を目指すべきですか？」という質問に、20代〜60代の先輩4人がそれぞれ「全く」違う観点から答える。同じ高校を卒業しても、それぞれ歩んできた年数や経験が異なると、

こども異なるものになるのか、と感心した。

「親に相談すれば、きっと何かしらの知恵を絞り出してくれると思う。奨学金という方法もある。まずは両親に相談してみることからで、目標を今すぐにあきらめるべきではない」と私が言うと、同じ同窓生である同級生は、

「不可能なことは不可能なことだ。これから社会に生きていく中でも、自分の思うようにならないことが沢山出てくるだろう。大切なのは、『自分自身で選択をする』ということだ。自分で選択したことであれば、どんな結果であろうと、きっと長期的に納得できるものになるはずだ」という、何とも「切れる」アドバイスをし、はたやベテランの大先輩は、「お金のことは本当に難しい。自分も夢を妥協したこともある。それも人生のひとつ」と厳しい現実を語った。

上記はほんの一例だが、聞いていた現役高校生は一つの質問に実に多くの答えが返ってきて混乱してしまっただろうか。それとも全てが「答え」であることは間違いないが、同時に疑問に対するただ一つの「答え」なんてそもそも存在しないのだ、ということに気が付いただろうか。

「人生でつまずいた時に何を柱、よりどころにしていけば良いか」に対する私の答えなど、きつと来年は変わっているに違いない。同じ人間の答えであっても、時間が経てば変わっていくものなのだ。交流会後に一人の現役生が駆け寄って

きて、私に話しかけてくれた。

「自分もNGOで働きたい」と。

私は名刺を渡すことしかできなかったが、その生徒としてはそれなりに勇気がいる行動だったのでは、と思う。輝いているその現役生を見て、ああ、私も初心に戻って輝かねば、と思いを新たにしたい。

また来年も、現役生に会いにいこう。

交流会には、 また参加したい

高59 川口 惇

今年も見事に仕事が早く終わり、交流会に参加することができました。先輩方や同期、卒業したばかりの後輩たちに会える喜びと、今年はどうな在校生がいるのかという期待でワクワクしながら会場へ向かいました。

一番最初に目に飛び込んできたのは、叱られている在校生でした。企業研修から遅れて帰ってきた模様…。

私はその姿を見て、学生時代を思い出しました。いろいろと某先生からお叱りをうけました。その時は、『クソーなんでこんなに言われなきゃいけねーんだ』

とイライラした思いもありますが、今はなぜ叱られたかがすごくわかります。そのお叱りがあったからこそ、今の自分があるんだと感謝しています。あの子たちも今は分からないかもしれないけど、いつか感謝するときがくると思います。

今周りを見ると社会人になって叱られなれてない大人が多すぎる気がします。ちよっと叱られただけで仕事に来なくなったりする人もいます。たくさん叱られて、人は成長できると思います。今後も親のかわりに伝習館の先生が愛情をもって叱りつけてほしいと思います。

交流会の話に移りましょう。

毎年のことながら、在校生には人前で発言するということが苦手意識をもってほしくないなあと感じました。顔をうかがうなんてしなくていい。あのたった2時間の交流会でなんでもいいから吸収してほしい。そのためにはなんでも気になることを質問してほしい。その質問から出た答えや話が在校生の今後の人生において財産になるかもしれないからです。

伝習館がまた好きになりました。

また、来年も参加したいです。

学年だより

高四（1953）卒の
東京同窓会

◆「花の雲鐘は上野か浅草か」

高四会は、千鳥ヶ淵の花見のあと懇親の宴を恒例としてきたが、2012年度は、少々趣向を変えて上野の花見にした。上野精養軒での昼食、懇談、続いて浅草まで足を延ばす。東北、九州からの参加もあり、23名とほぼ例年通りの盛会となった。浅草では、久々に仲見世などを見て回り、台東産業会館のレストランで、2時間程度二次会……ここは筆者にちよっとした縁があって、閉店後、特別に貸切で利用できたのが良かった。

（渡邊喜亮記）



2012年4月5日（木）上野精養軒前庭

◆「日比谷公園松本楼」

同窓会も度重なること、世話役としては、会場設定に苦勞する。2013年4月の会場は、前回同様会費が少々かさむものの、松本楼のバイキングで昼食懇親会にすることにした。先年、グランドパレスの伝習館東京同窓会で講演した米国在住の新谷弘美君が初めて参加したほか、今年も北上の井上真砂さん、大牟田の宮崎有美さんの参加があった。宴会終了後、近くの航空会館のサロンに案内し懇談、さらに夜は有志で新橋の某クラブで杯を傾けた。なお、松本楼入口には、辛亥革命に至る在野の日中連携の証しともいべきほどの写真が掲げられている。(渡邊喜亮記)



2013年4月18日(木) 松本楼テラスガーデン前

出席者：宮崎有美、掛札照子、吉田佐紀子、荒井健之輔、井上真砂、新谷弘美、高須信治、中川彪、福山恭輔、丸勢正夫、渡邊喜亮、梶島啓之、水野圭介、溝田昌司、富永たか子、渡邊義美、野田久人、倉本博子、高江茂子、森本文子、緒方常子、野田美奈子

第34回「ふくの会」

高5 阿津坂林太郎

「ふるさと」は今も柳川お賑きえ、
高5回卒の多くの面々が傘寿を迎える中、今年の「ふくの会」は平成26年10月16日、副都心の中心、品川プリンスホテルで催された。出席者は、遠来者6名を含めて31名という近年にない盛況ぶりであった。今年も9組が幹事役を担当して一致団結のもと左記の要領で会は運営さ

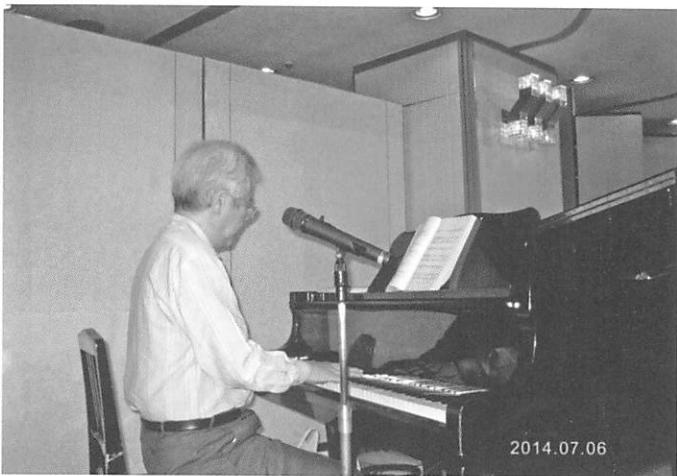
れた。

- ◎ 受付・資料配付 阿津坂 平野善一
 - ◎ 記念撮影 古賀弘
 - ◎ 進行役 田中禮二
 - ◎ 開会の辞 平野善一
 - ◎ 物故者への黙禱 全員
 - ◎ 世話人挨拶 岸栄洋
 - ◎ 遠来者紹介 田中禮二
 - ◎ 乾杯の音頭 樺島啓之
 - ◎ スピーチ ほぼ全員
 - ◎ 校歌斉唱 原田和幸・岸栄洋
 - ◎ 閉会の辞 安藤祥介
 - ◎ 印象に残ったスピーチ
 - ◎ 席順に
- 伝習館バレー部の黄金時代に貢献した立て役者龍君は豊後大分から馳せ参じ、切なる願いは母校のバレー部監督をやりたいこと。第一回「ふくの会」の会場「獅子林」を紹介した樺島君は10年振りの顔見世で、白秋の「帰去来」、室生犀星の「抒情小曲集」(小景異情その二)から「ふるさと」は遠くにありて思ふもの」という詩を引き合いに出して望郷の念を熱く語った。野口君はバレー部に入部したものの僅か一ヶ月で愛想を尽かし退部した後、中学時代の恩師で詩人松永伍一先生の薫陶よろしく文芸部の創設に当った。柳河小学校長の奥方寛子さんは諸藤さんという牛に引かれて善光寺参りならぬ「ふくの会」初詣。住めば都、雅な京都



平成26年10月10日 於品川プリンスホテル

暮らしてに馴親しむ滋賀君は念願叶って在京同期会へ初陣顔出し。尾張名古屋からの石橋君は原田君の旨い誘いにのせられて病を押しての出席。浪速路からリピート参加の逸見君はエピソードを交えて校内マラソンに想いを馳せつつ、第六位という実績自賛を披露した。一次の宴が間延びしたため15分遅れで、39階に河岸を変えて、コーヒーを喫しつつ、高校時代にタイムスリップしての懐旧談に時の経



ピアノ演奏の古賀譲次君



同期生からの花束贈呈



当日の出席者

高12回生の集い「くっぞこ会」を平成26年10月26日、東京・赤坂・山王健保会館（木都里亭）にて開催しました。出席者は26名でした。（柳川より1名、静岡・掛川より1名、宇都宮より1名）。木都里亭は、同期、田中省三さんのお世話で、昨年続き、同じ場所で開催しました。世話人代表、野上一治さんの開会挨拶に始

「くっぞこ会」
高12 小野アケミ

前列左から 古賀譲次、木村峯子、池田勝嗣、岡田哲也
後列左から 城島祥子、戸上軍治、石橋 修、川口鍵寿郎
(敬称・略)

高6回(昭和30年卒)だより

石橋 修

つのを暫し忘れた。
お開きの時が訪れると、同期生の多くが次回の再会を期して三三五五家路についていった。
「付記」なお高五回卒学年幹事に故松永肅君の後任に古賀弘君を推薦したいと岸君（学年幹事）が発言し了承された。両君よろしく。

以上

では、私たち高6回卒の出席者は8名でした。少人数の出席メンバーながら、今回の東京同窓会での高6回卒勢の活躍と存在感は、相当なインパクトを会場の皆さんに与えたのではないかと自負しています。
岡田哲也君は鎌倉在住の頃から常連の出席者で、九州・久留米に移住後も欠かさず出席しています。また彼が寄贈するギリシャ・クレタ島のオリブオイルは抽選会景品の人気のターゲットで、皆さんに喜ばれています。
木村（松本）峯子さんは毎回、自作の受賞作品を会場に展示してくれています。今回は国内外で高く評価され数々の賞を受けた大作の墨象を3点、会場の壁面に展示し、壇上で彼女自身がそれぞれ

の作品のモチーフと彼女の思い入れを語り、深い感銘を与えました。
そして懇談会アトラクションのメインとしてピアノ演奏で会場を魅了したのが古賀譲次君でした。「慕情」「ロミオとジュリエット」ほか懐かしの映画音楽に続き、北原白秋作詞の「砂山」を演奏し、会場から万雷の拍手を受けました。実はもう一曲、東北の被災地の方々を応援する「花は咲く」を彼のピアノ伴奏で会場の皆さんに歌って貰おうと準備していたのですが、時間の都合で取りやめになり残念なことでした。彼の演奏後、司会の芹川さんから「古賀譲次様、数々の懐かしい映画音楽などの熱演ありがとうございます。古賀様の素晴らしいパフォーマンスに高6回の同期の皆さんから花束

が贈呈されます。高6回の同期生を代表して書道家の木村峯子様と、昭和28年インターハイ陸上女子全国制覇の快挙を成し遂げた時の中心選手だった城島祥子様のお二方からお渡し頂きます。」と紹介され、照れる譲次君に花束が贈られました。

さて紙面をお借りして三稜会の皆さんにご連絡します。出席者の人数は年々少なくなっていますが、細々ながら同期会は続いています。今年も三月頃に三稜会を開催しようと幹事一同で話し合っています。一月下旬にご案内出来ると思います。その節は奮ってご出席下さい。



祝「第31回くっそご会」

「第31回くっそご会」 2014. 10. 26 港区赤坂 山王健保会館 木都里亭

出席者名(順不同)

男性18名

石塚武美、江口清次、尾田常昭、白尾邦久、滝口晴夫、田中省三、野上一浩、野田幸治、葉玉真紀、橋本喜一、辻野史朗、原田健治郎、藤生廣紀(柳川より)、藤吉悌二、山田裕嗣(掛川より)、横山正和、池末博之、古賀懿徳

女性8名

小畑タエ子、小野アケミ、田嶋幸江(宇都宮より)、馬場康子、春口明美、村上国子、中島義枝、梅崎紀子

高14回 同期会開催

高木節子

私達高14回同期会は2014年10月24日、同期の中ノ森重義さんのお世話で「銀座東武ホテル」で開催し25名が参加しました。

私達14回生には二人のホープがいま

す。このお二人の今年のご予定を紹介しま

・綿貫直諒さん(イタリア在住の画家)

同窓会報・創刊号の表

紙(桜)を画かれた方)

※銀座松屋で13回個展開催予定

・杵屋勝国さん(会報14号にて紹介)

(牟田口照国)

※ハワイ大学の招聘により2/16

2/21 ハワイ公演

お二人が一緒にの写真は一枚だけです。丁度今年はお二人の素晴らしいご予定が決定、皆様にお二人を紹介したくあえてこの写真を載せました。



2012.11.9 銀座東武ホテルマリOTT

中ノ森重義

濱尾(鶴)淑江

樋口(松尾)郁子

佐田悦望

平野晴子

石橋俊一

壇雅昭

小柳(白谷)美恵子

梅崎正吾

高木(堤)節子

綿貫直諒

甲斐(友田)昌彦

浦家史好

仲野(田中)陽子

牟田口照国

(杵屋勝国)

荒巻猛

廣田(東)寛子

長柄道夫

堀勝義

由布惟信

今泉(岩永)京子

佐々木優

櫻井(許斐)幸子

松岡健次郎

坂井(境)喜代子

甲木(中島)直子

橋本和彦

倉成(蒲池)禎子

西山(小柳)聆子

大八木勝彦

ふるさと瓦版

新

市史抄片

115

■ 問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

秀吉の古文書「九州之一物」と黒田官兵衛



柳川古文書館が収蔵する中核的な古文書の一つに柳川藩主であった立花家の古文書があります。ご存知のように立花家は、豊後の戦国大名大友家の重臣であった戸次道雪を祖とし、その養子立花宗茂が九州平定の際に豊臣秀吉に認められ柳川城主として取り立てられた家で、宗茂は関ヶ原の戦い後に一度改易されたものの柳川に再封され、その後立花家は廃藩置県まで柳川の藩主でした。

その立花家には数多くの豊臣秀吉の判物や朱印状が残されていますが、ほとんどは表装されず、うぶなまま今日に伝わっています。そのなかで特に表装され、箱に入られた一通の豊臣秀吉判物があります(写真)。

天正14(1586)年、

九州平定を目論んだ島津氏は大軍を率いて北上し、同年7月には宗茂の実父高橋紹運の守る若屋城を落とし紹運を敗死させます。そして、次に立花宗茂の拠る立花城も包囲しますが、8月25日ごろ、その囲みを解いて撤兵します。宗茂は、この機を逃さず星野氏の守る高島居城などを攻め落とし、秀吉は、この高島居城での宗茂の働きぶりを聞き、この判物で宗茂を「如此之段、誠九州之一物二候」と激賞したのです。この時の働きに、もともと大友家の家臣であった立花家が、豊臣秀吉に一個の大名として取り立てられることにつながっていきます。

しかし、この秀吉の判物は立花宗茂あてに出されたものではありません。宛所にあるように安国寺恵瓊、黒田勘解由(官兵衛)、宮本堅甫の3人へ出されたものです。ですから、この文書は3人に廻覧されたあと、誰かの手に残りその家に伝えられたと考えるのが自然です。ではなぜ、立花家に伝えられているのでしょうか。

実は、関ヶ原の戦い後の宗茂改易にあたり、黒田家に仕えることになつた蔚野氏の家譜「蔚野家譜」には「右の御称譽ハ誠に立花家面目ある御書面也、此御書黒田家に在しを、寛文年中に立花飛騨守忠茂より黒田平左衛門重頼を以て御所望有し故、光之公より是をつかわされし也」とあります。つまり、この判物は黒田勘解由(官兵衛)の手に残り、そのまま黒田家に伝わっていました。立花宗茂を「九州之一物」と評した秀吉の言葉が記されていたため、2代藩主立花忠茂が黒田光之に懇望して手に入れたのです。この秀吉判物だけが、特に表装され、箱に入れられているのはそういう理由によるものです。

柳川古文書館では、10月1日から「秀吉の古文書」宗茂、吉政、そして「官兵衛」と題した企画展を開催します。この判物をはじめ、秀吉の古文書を多数展示します。ぜひこ米館ください。

柳川古文書館副館長 田淵義樹

柳川古文書館は、来年の企画展に向けて安東省庵の書を探しています。所蔵されている人は、ぜひ同館までご連絡ください。



8月20日に垂見保育園で開かれる日中韓児童友好絵画訪日交流会に参加するごぼお〜。園児と一緒に国際交流を深めてくるごぼお〜

柳川市マスコットキャラクター「こっほりー」



供養碑前の掘割にウナギを放流した

柳川名物のウナギに感謝

第48回うなぎ供養祭

うなぎ供養祭が7月17日、柳城児童公園そばのうなぎ供養碑前でありました。これは、柳川で毎年消費される150万匹を超えるウナギの霊を慰めようと、柳川うなぎ料理組合(川口治彦組合長)が、昭和42年から土用の丑の日を前に毎年行っている催し。この日は関係者約40人が、ウナギ約150匹を掘割に放流しました。川口組合長は「栄養たっぷりのウナギを食べて、この夏を乗りきってほしい」と話しました。



8月2日と3日に開催された水郷柳川夏の水まつり「スイ!水!すい!」に参加した
こぼお〜。雨にぬれながらも、みんなが水に親しんでくれてうれしかったこぼお〜

柳川市マスコットキャラクター「こぼりー」

市内各地で夏祭り

中島祇園祭り・蒲船津千燈明・人権フェスタなかやま



囃子方の演奏に合わせて獅子が舞う下町の獅子山

7月下旬から8月上旬にかけて、市内各地で夏祭りがありました。7月26日は中島地区で中島祇園祭りが開催。各地域から出された大蛇山、獅子山、踊り山、殿様行列などが同地区を回り、祭りを盛り上げました。蒲船津の熊野神社でも同日、恒例の千燈明を実施。約1000個の赤貝の貝殻にナタネ油とい草の灯心を入れて火を灯し、五穀豊穡を願いました。8月2日、20回目を迎えた人権フェスタなかやまが開催されました。オープニングでは、「わっしょい、わっしょい」という児童の元気な掛け声と共に、子どもみこしが会場周辺を練り歩きました。



蒲船津千燈明では子どもたちも灯心に火を付けた



元気な掛け声で回った中山子どもみこし

市へのふるさと納税

年度	寄付者数	寄付金額
20	5人	188万円
21	2人	15万円
22	11人	85万円
23	78人	167万円
24	219人	1290万円*
25	762人	1406万円
26	1050人	2270万円

26年度は6月末現在の数字
※平成24年度は1名から1000万円の寄付あり

市外にお住まいの親戚や友人、知人に市へのふるさと納税を勧めませんか。1万円以上の寄付者には、柳川の特産品をお贈りします。

寄付の申し出や手続きについての問い合わせは、市税務課市民税係（☎77・8453）、お返しの特産品については市企画課広報広聴係（☎77・8425）まで。市公式サイトでも紹介しています。

▶寄付のお返しに贈っている柳川の特産品

市へのふるさと納税が好調です。ふるさと納税は、地方自治体にお金を寄付すれば、所得税と住民税が控除される制度。寄付した額に応じて、お礼の記念品などを贈る自治体が全国に約半数あり、市もうなぎの蒲焼きをはじめ、のりや米、酒、あまおう、巨峰などの特産品を贈っています。

昨年、お礼の特産品を、8品から20品にしたところ納税者が急増。5月には、ふるさと納税の特産品を紹介するウェブサイトで、市の特産品を紹介したページ閲覧者数が全国ランキング1位になるなど、今年度に入って寄付金はうなぎ上り。テレビや雑誌の取材も相次いでいます。

寄付金は市の基金に積み立て、教育や環境保全、福祉、健康づくりなど、人づくりやまちづくりのために使われます。昨年度は、「やながわ人物伝」の増刷や、「魅力ある学校づくり事業」に使われました。

ふるさと納税全国ランキング1位
3か月で2200万円を超す寄付金



▲以上「広報やながわ」から

まちの話題

水上の大運動会「堀んぴつく」開催!

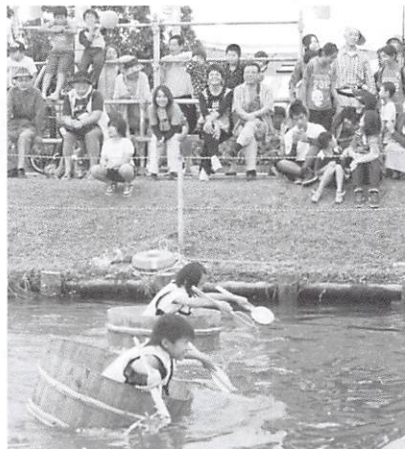


「走りきれるか!」(水上20メートル走)

▼遠くまで飛ばせ!
(ヒシ飛ばし大会)



▲難問ぞろいの税金クイズ



▲デッドヒート!
(ハンギリレース
小学生の部)

▶フラッグ目指して!
(ハンギリフ
ラッグチャ
レンジ)



◀ヒシの飛距離を厳正
に測定する大会審判員

9月21日に、道の駅おおき北側の堀で「堀んぴつく2014」が開催されました。この「堀んぴつく」は、かつては、遊び場としても身近な存在だった堀を今の子ども達にも伝えたいと、商工会青年部が中心となって毎年開催されています。

今回も、水上に敷かれたゴザの上を駆け抜ける「水上20メートル走」や、ヒシの実の収穫に用いられる「ハンギリ」を使った「ハンギリフラッグチャレンジ」や「ハンギリレース」が行われました。

各競技とも堀に落ちる選手が続出したものの、子どもから大人まで水上の大運動会を楽しんでいました。

隣接する道の駅のイベント広場では、「ヒシ」飛ばし大会や税金クイズ、大抽選会などさまざまなイベントが行われ、町内の団体やグループの出店もあわせ、多くの人で賑わい、堀んぴつくに欠かせない盛り上がりを見せていました。

▶「広報おおき」から

書籍紹介

多くの生きものが姿を消しつつある日本の沿岸域。すべての生きものの「ふるさと」である海に、深刻な影響を及ぼし続けている人間の営み。かつて「宝の海」と呼ばれ、今では瀕死の状態となった有明海とは、そうした日本の縮図である。水環境の保全と再生という喫緊の課題に向け、森と海のつながり、自然とともに生きる価値観の復元を目指す森里海連環による実践の成果を問う、研究者と市民協同による実践の成果を問う。

森里海連環による
有明海再生への道
心の森を育む

NPQ法人SPEARA森里海・時代を拓く編
田中 克 / 吉永郁生 監修

出版社 花乱社
TEL 092-781-7550
FAX 092-781-7555
発行日 2014年7月20日
1600円+税

伝習館高校生物部が研究に協力しています。
本の中に生徒の研究発表の文章も載っています。

(高21 白谷政則)

編集委員退任に当って

高2 小野善睦

毫礫という難しい漢字がある。今ではボケとか認知症とか言う。それが進行してきつつある。漢詩では……

老体年来日々添 黒花飛眼雪生髯
となる。

昨年(2010)の学年幹事会で編集委員を退任すると言ったら、ひと騒動である。本音ではないだろう、辞めるなどか、後任が居ないので困るとか、突然言うなどか、まるで犯罪者扱い(笑)である。ようやくあくあきらめられて後任が決まったのが八月頃である。

感謝!

創刊号から第14号まで足掛け十二年、編集委員をやつて来た。編集長だなんて煽てられて自己満足の同窓会報をお届けしてきた。その間、ご愛読? 頂いた会員の皆さんに感謝し、厚く御礼申し上げます。

会報を発行するには何をおいても当然原稿が必要であるが、特に学年幹事の皆さんに、直接間接に、予想以上にバラエティに富んだ沢山のご投稿を頂いた。芸術的な写真や絵画、世界的な評価の高い墨象などもご提供頂いた。貴重な資料や情報も沢山お寄せ頂いた。これだけあれば、後は、一説によると誰も読まないという(笑)会長の年頭挨拶を載せれば完

成である。これなら誰だって編集長なんかできる。おかげさまで今日まで来た。学年幹事の皆さんに厚く御礼申し上げます。

とはいえ最初江崎君が会長に就任し、同窓会の活性化、組織的運営の一環として会報を発行したので協力しろと言うので委員を引き受けたが、不安でいっぱいだった。果たして原稿が集まるのか? 表紙のデザインは? どういうレイアウトであれば会員の皆さんが読みやすいのか等、全く自信がなかった。

ご承知の方も多いと思うが、我々高2回の同期では三十余年に亘り、年3・4号の間隔で「東京星座」という同期会誌を発行して来た。編集は江崎君と私で発起人の一人は既に仙人となった堤陽太郎君である。昨年でめでたく100号に到達した。その中には同期だけでなく同窓の皆さんにも読んでいただきたい貴重な文章があったから、万一、会報の原稿不足の折は転載すれば乗り切れるかなと思つた。

また、先輩の著述業をなりわいとされておられる成清良孝氏に事前に相談したら「いつでも書きますよ、それも稿料なしで」という力強いお言葉を頂き、背中を押して頂いた。事実その後、文章だけでなく娘さんの芸術的な絵でも表紙を飾って頂き大変有難かつた。特に厚く御礼申し上げます。

会報の発行費用については委員はノータッチである。印刷製本を依頼している朝日メディアの原島部長にも編集委員会の会場を提供頂いたり、勝手な注文を聞き届けて頂いたり、適切なアドバイス

頂いた。今や柳川弁にも精通され良きパートナーである。紙上を借りて厚く御礼申し上げます、今後の更なるご協力をお願いしたい。

振り返って……

当初、半年に一回の発行を目指していたが、やはり費用の面や原稿の集まり具合等、第5号位で行き詰まりを感じた。2005年刊の第5号への投稿者は僅かに3名のみ、第6号に至っては投稿者2名のみである。危機である。

無い頭を絞つてみた。皆さんきつと故郷のトピックスには興味があるだろうと思ひ、故郷の各市町の広報誌・地元発行の新聞等から情報を寄せ集めて「ふるさと瓦版」として提供するようにした。また我々同期が卒業三十周年に単行本に纏めた文集「橘蔭後あり」や前記「東京星座」や、中56回の皆さんが発行された「白雲なびく」から特に戦時下の伝習館生がどんな学校生活を送っていたか、等を転載紹介してみた。

第3号に高10回の永倉素子さんが書いた御母上・古賀(跡部)愛子さんからの聞き書き「昭和初期の柳河高女物語」を読んだ高6回の江崎逸夫さんから、第4号に「東京同窓会報『伝習館』に出会えて」という一文を頂いた。要旨は、四回のガンの手術に耐え、闘いに明け暮れている中で、この会報に出会えて故郷の両開村やさまざまな昔の思い出を甦らせてくれて生きている喜びを与えてくれた。

この会報は柳河高女や伝習館だけの会報ではない柳川の歴史を綴る貴重な歴史書である。柳川を故郷に持つ者に誇りを持

たせてくれる。と書いてくれた。大変光栄で、面映い気持ちである。しかし、何千人の読者の中にこんなにも喜んで下さる人が一人でも居られたということは、編集委員としてとても嬉しく、またその後の大いなる励みになった。

皆さんのご協力で、我が文武両道の母校の武の全盛期ともいえる昭和二十年代の水泳部、野球部、バレー部、テニス部、陸上部等々の全国レベルでの数々の活躍ぶりを伝え遺すことができた。また世界的にも全国的にも活躍されている沢山の同窓生を紹介することができた。まだまだ紹介しきれない方々も多いと思うし、昭和三十年代以降の母校の活躍ぶりを紹介していくのも今後の課題として残っている。

これは編集委員というより学年幹事としてのことであるが、二点だけ心中、私個人で秘かに嬉しく誇りに思っていることがある。

一つは創刊号に紹介した孔子三像の対面式のことである。当時から私は月に一回、湯島聖堂に講座受講のため通っていた。安東省菴没後300年の記念として何かをやるとういう話が持ち上がった、三像の対面式を提案したのは私である。湯島聖堂にある孔子像は公益財団法人斯文会が保管管理している。斯文会の理事長は私が受講している講座の講師石川忠久先生である。つなげばいい、後は江崎会長が活躍してくれて歴史的な催しが実現した。

もう一つは第11号で紹介した2010年の総会で、壇上に立花家ご一家全員を登壇して頂き紹介できたことである。御

年満一〇〇歳の文子様と三男三女の皆さんである。これも私が江崎会長を焚き付けて実現した。

文子様の方はお忘れだったと思うが、私は昔々、文様に一寸失礼なことをした思いがある。当日、車椅子に近づいて御手を握って心中お詫びしたのは、誰も知らない私だけの秘密である。

校正恐るべし！

第12号に「※8頁、9頁、10頁については、文責は全て事務局にあります」と掲載したのをお気づきの読者は居られるだろうか。

ご投稿頂いた原稿は初稿の段階で時間が許す限り著者本人にも校正をお願いしているし、委員五人と原島部長とで校正しチェックしているが、度々誤りを防ぎ切れないで来た。度々ご投稿頂いた成清・福山・白谷の各氏の原稿は感心する位正確で校正の必要が殆んどなかったが、文章の中の少々の変換ミス位なら会員の皆様のレベルの読者なら正しく読み直して頂ける。一番困るのは数字である。過去の年月日、スポーツのレコードタイム、距離、点数等々はチェックしないで来た。手が廻らない。原稿が間違っていたらそのままである。申し訳ない。今後は数字のチェックだけをする専門の編集委員を置かれたら如何。

前記の第12号の「※8頁、9頁、10頁」というのは賛助金のご協力状況報告・通信欄コメントと同窓会決算収支報告書である。協賛頂いた金額と卒業回・氏名、それに会報や同窓会に対する意見や感想を掲載している大切な頁である。ところ

が事務局から提供頂いた原稿の卒回や氏名が間違っているのが編集委員で自分の学年をチェックしただけでも続々とある。折角貴重な賛助金をお寄せ頂き感想を下された方々の氏名が間違っているという大変失礼な結果となる。これは郵便局から返ってきた振替用紙からパソコン入力された際の誤りだろうと、事務局から原本の提供を頂き委員で原本とのチェックをする方法でなければ防ぎようがないと思っただが、事務局からは振替用紙の提出はなく、自分で再チェックするからと言われ、お任せしたらまたまたミスで、例えば高8回20名の中だけでも4名が間違っていた。

収支報告も元ソロバンの下手な銀行員が再検すると収入と支出の欄の合計数字が合わない事もあった。此の頃からご病気の症状が出ていたのかもしれない。

同窓会報とは

外国のことは知る由もないが、日本の同窓会報とはどんな会報だろうか？ そう思いながらやって来た。

心がけたのは、政治色・宗教色・思想色の濃厚な原稿は極力避けて来た。

民主党政権の時代に大臣に就任された同窓生が居られ、ある会員から母校始まって以来二人目のことだから紹介すべきだと言われたが、しなかった。

東京同窓会だから読者は皆さん故郷を離れられている訳で、私自身そうであったように寂しい時、悲しい時、ストレスのたまった時、ふと思出し元気を貰うのは故郷の山河であり、思い出であり、友人であり、肉親であり……

出来るだけ故郷の情報を提供しようと、心がけて来た。総会の出席者に卒業小学校名を書いて頂いた。小学校の所在を分析してみると、ほぼ柳川市内が七割、大川・みやまが三割であった。やはり柳川中心の「ふるさと瓦版」になった。一文がある。

水郷柳河こそは、

我が生れの里である。

この水の柳河こそは、

我が詩歌の母体である。

この水の構図、この地相にして、

初めて我が体は生じ、

我が風はなつた。 —北原白秋

皆さんも「水郷柳河」を「伝習館」に読みかえて頂ければ同じ心境だろう。

「ふるさと納税制度」が創設され制度の内容を第9号で紹介した。実は柳川市への「ふるさと納税」者第1号は私である。

貧者の一灯であるが、以後毎年続けている。結果は納税した所得税の一部が故郷に廻されるだけで、本人の負担はさして変わらない。最近では沢山の郷土産品の還元もあり納税者も増えて来ているという。

「児孫のために美田を買わず」

は西郷隆盛の詩であるが、あの世までお金は持って行けない。子や孫に残しても争いの因を残すのみである。

是非、奮って「ふるさと納税」と「東京同窓会協賛金」への納税・協賛をお願いしたい。

同じテーマの投稿が重なった場合、できるだけ先着順に掲載したが、或いは同

時に載せても良かったかもしれない今では反省している。

このテーマは先に載せたからと避けたのが、既に何年か間隔が開いていたということもある。

例えば、表紙の題字「伝習館」は江崎君に伝習館の創立者立花鑑賢公の扁額の書を臨書してもらった。そのことの紹介や「東京同窓会会則」の紹介も、いつの間にか十年以上掲載していない。

同じ編集者が続けてきた弊害である。

次号には是非又紹介して頂きたい。

「継続は力なり」

今までの会報を踏襲するのではなく革新的な会報を続けて行ってもらいたい。老害を避けるべく退任した。勿論今後も委員ではないが、よりよい会報になるよう皆さんと一緒に協力していきたいという気持ちに変わりはない。

創刊号に掲載した江崎新会長インタビューに

「会報を発行して会員相互、母校との連携を密にし、理解を深め、楽しい求心力のある同窓会にして一層交流の輪を広げて行きたいと思えます」

とある。果たしてその期待に沿えたか疑問であるが、今後長く継続することによりきつと彼の希望に近づけるものと確信している。

支離滅裂の感を免れない文章になった。

乞うご容赦！

平成26年10月記

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)

普通預金

口座番号 1073673

口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。



伝習館東京同窓会事務局

〒170・0003

東京都豊島区駒込3・3・19

TEL 03・3915・0865

FAX 03・3915・0220

広告募集

チラシ広告

対象 東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。

○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。

○広告代金 一件につき弐万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真

2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ

○テーマ自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など

○字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20)原稿用紙使用)
写真・絵・カット添付可

○表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。
※原則10月20日〆切

—原稿送付先—

① 〒284・0024

四街道市旭ヶ丘3・14・14

伝習館東京同窓会 内山 秀生 行

☎ FAX 043・432・3854

② 〒153・0051

目黒区上目黒3・21・19

伝習館東京同窓会 北島 正常 行
E-mail: anc54684@nifty.com

編集後記

○小野前編集長は第14号までほとんど発行の中心となり、ご尽力いただきました。

辞められた後の穴は大きく、なかなか埋まるものではないですね。小生は、後任には、あまりにも非力で固辞してきましたが、事態収拾のため、野球でいう「ワンポイントリリーフ」を条件に引き受けました。編集委員には若手の方にも入っていただきました。中でも北島さんは編集経験豊かな方です。「やはり伝習館OBは人材も豊富はい」と意を強くしました。14号まで「校正」だけを担当してきましたので、「編集」のやり方がわからず、不安の中進めてきました。皆様のご協力で何とか第15号の発行ができました。有難うございました。

(内山秀生)

○新たに編集委員に加わりました北島(高21)です。若手というには藁(とう)が立っておりませんが、早ら先達の域に近づけるよう精進いたします。皆様からの、便りがたより、となりましますので、今後ともご協力をお願いします。報告を一つ。昨秋、錦織圭が全米オープンで準決勝に進んだ際、96年ぶりに熊谷一弥が脚光を浴びました。それまでの男子テニスの全米最高位は熊谷のベスト4だったからです。酒井清行先輩より「熊谷さんは伝習館生やっただけな」との情報が入ったので調べてみました。熊谷は明治23年生まれ、大牟田市の出身で、伝習館中学に入学。その後は兄が通う宮崎中学に移り、野球、陸上に励んだ。慶応大に進みテニスで活躍、アントワープ五輪では銀メダルを獲得している。卒業生ではなかったが白秋同様、伝習館が誇れる先輩の一人です。(北島正常)

○編集委員は次の通りです。

内山秀生(編集長 高10)

永倉素子(高10)

福山博彰(高18)

高奥和登(高20)

白谷政則(高21)

西原正道(高21)

北島正常(副編集長 高21)

成清良孝(顧問 中56)

江崎 正直(高2)

副会長 原田(立花)万紗子(高13)

副会長 梶島正司(高16)

発行責任者 江崎正直

〒156・0043

東京都世田谷区松原3・39・25

801

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成26年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	第15回		第35回	田中鉄郎
中学第49回		第16回(副会長)	椛島正司	同上	橋本知彦
中学第50回		同上	水澤昭子(田中)	第36回	松藤 亘
中学第51回		第17回	北島文之	第37回	江口一元
中学第52回		同上	北野すえ子(潮井川)	第38回	金子千恵美
中学第53回	古賀和典	同上	下吹越智佳子	第39回	高橋 徹
中学第54回	原 朗	第18回(常任学年幹事)	福山博彰	第40回	田中貴士
同上	山崎清勝	同上	十時理展	第45回	浦 裕美
中学第55回	江崎和夫	同上	満生英二	第48回	山内朋彦
同上	小泉祐一郎	第19回	芹川季代子(立花)	第49回	
中学第56回	鬼丸敏男	同上	田中茂利	第50回	河内慎治
同上	成清良孝	第20回(常任学年幹事)	高巢和登	第51回	大曲由起子
高女45	石橋佳香	同上	岡 賢二	同上	西田大樹
高校第1回	増尾義勝	同上	近藤敬介	第55回	武下優子
第2回	石崎知見	第21回(常任学年幹事)	西原正道	同上	松尾晴菜
同上(会長)	江崎正直	同上(常任学年幹事)	白谷政則	同上	龍 幸弘
同上	小野善睦	同上	北島正常	第56回	木村陽佳
第3回	酒井清行	第22回	北原富美男	第58回	市川広大
第4回	荒井健之輔	第23回	成田八重子	同上	廣松綾香
同上	丸勢正夫	同上	樋口貴美子(田上)	第59回	川口 惇
同上	渡邊喜亮	同上	高田健二	同上	廣松浩司
第5回	岸 栄洋	第24回	酒見和平	同上	古賀康之
第6回	石橋 修	第25回		同上	深町日出海
同上	戸上軍治	第26回	藤吉旭水	第60回	
同上	高木 健	第27回	高橋圭介	第61回	江崎崇浩
第7回	龍 弘道	同上	松藤峯成	同上	植木 智
同上	永江嵩子(湖上)	第28回	吉開孝人	第62回	亀崎元貴
第8回		第29回	斉藤慎吾	同上	古賀康孝
第9回	原田光紀	第30回	橋爪政男	同上	中村知永
第10回	内山秀生	同上	小野弘美(中山)	同上	本園雄也
同上	永倉素子(跡部)	第31回	池末利活	第63回	野中 優
第11回	永尾弘行	同上	永田日出樹	第64回	生田正史
第12回	小野アケミ(岸川)	第32回	守谷由佳(富重)	第65回	安永 新
第13回	田中利道	同上	森永 明	第66回	梅崎香菜恵
同上	尾田義昭	同上	一木亮之介	第67回	中村知永
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第33回		第68回	樋口由香里
第14回	石橋俊一	第34回	天津志保		
同上	高木節子(堤)	同上	泉 孝子		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

伝習館東京同窓会会則

平成14年7月21日

- 一 (名称) 本会は伝習館東京同窓会と言います。
- 二 (目的) 本会は会員相互の親睦と融和を図ると共に母校の発展に資することを目的とします。
- 三 (事務局) 本会の事務局は次の場所に置きます。
〒170-0003 東京都豊島区駒込三丁目3番9号
千鳥屋 内 伝習館東京同窓会 事務局
- 四 (事業) 本会はその目的を達するため以下の事業を行います。
1 総会の開催
2 同窓会誌の発行
3 母校事業の後援等
4 その他本会の目的達成に適切な事業
- 五 (会員) 本会は福岡県立伝習館高等学校、中学伝習館、柳河高等女学校、高等学校伝習館(含む併置中学校)、柳河女子高等学校(含む併置中学校)卒業生並びに一時在籍した者を以て会員とします。
- 六 (会計) 本会の会計は会員の会費、寄附金品等を以て運営し、毎年1回、幹事会においてその収支を監査します。
- 七 (役員) 本会には以下の役員を置きます。
1 会長 1名
2 副会長 2名以内
3 事務局長 1名
4 幹事 若干名
5 会計 2名
- 八 (役員を選任等) 会長は幹事会の推薦により総会で決定し、副会長並びに事務局長及び会計は幹事会で、幹事は各卒業年度の会員の互選により2名以内を各選任します。
- 九 (役員任期) 役員任期は4年として、その再任を妨げません。
- 十 (総会) 総会は2年に1回開催します。会長は総会において会計を報告します。
- 十一 (付則) 本会則は総会の決議により改定出来るものとし、本会に必要な細則は幹事会で別途定めます。



オリーブ畑の春



(高 14) 綿貫直諒画伯 油絵



「鶴と亀」 龍 勝
大川在住の義兄（妻の長兄）が作ってくれた正月飾りの鶴と亀
（材料稲穂と藁）